

東京大学大学院新領域創成科学研究科

国際協力学専攻

2019 年度

修士論文

エチオピアにおける初等教育中退後の学習機会の検討

—夜間学校の出席状況に影響する要因に着目して—

(Investigation of education opportunities after primary school dropout in Ethiopia:

Focusing on factors related to attendance at evening school)

2020 年 1 月 21 日提出

指導教員 坂本 麻衣子 准教授

太田 みなみ

目次

序論.....	4
1. 研究背景.....	4
2. 研究目的.....	6
3. 研究手法と本論文の構成.....	6
1章 エチオピアにおける教育制度および初等教育の現状.....	8
1-1. エチオピアにおける現行の教育制度と新制度.....	8
1-1-1. 就学前教育.....	9
1-1-2. 初等教育.....	9
1-1-3. 中等教育および高等教育.....	10
1-1-4. 教育における使用言語.....	11
1-2. エチオピアの教育政策.....	12
1-2-1. 教育訓練政策 (Education and Training Policy/ ETP)	12
1-2-2. 教育セクター開発プログラム (Education Sector Development Program/ ESDP)	13
1-2-3. 一般教育の質改善プログラム (General Education Quality Improvement Program/ GEQIP) ...	14
1-2-4. 国家成人教育戦略 (National Adult Education Strategy/ NAES)	14
1-3 初等教育における中退および復学に関する現状.....	15
1-3-1. 統計指標の算出方法.....	15
1-3-2. 就学率の改善と就学継続の課題.....	15
1-3-3. 初等教育中退と復学の現状.....	17
2章 中退後の復学および代替教育プログラムに関する一次調査.....	20
2-1. 初等教育中退および復学に関する既存研究.....	20
2-2. エチオピアで実施されている代替教育に関する既存研究.....	21

2-3. 一次調査の目的.....	21
2-4. 一次調査の方法.....	22
2-5. 一次調査の結果.....	25
2-5-1. 初等教育機関復学者.....	25
2-5-2. 非復学者.....	26
2-5-3. 代替教育機関.....	27
2-6. 一次調査まとめ.....	28
3章 夜間学校における出席状況に影響する要因に関する二次調査の概要.....	31
3-1. 問題の所在.....	31
3-2. 既存研究の整理.....	31
3-3. 二次調査の目的.....	32
3-4. 二次調査の方法.....	32
3-4-1. 調査対象校の概要.....	32
3-4-2. 調査方法.....	34
3-4-3. 分析方法.....	37
4章 調査結果と分析.....	38
4-1. 夜間学校生徒の基礎データと初等教育修了試験合格率.....	38
4-2. 職業と出席状況の関係.....	41
4-3. 出席状況に関連している要因.....	43
4-4. 教科理解度と夜間学校生徒の言語状況.....	44
4-5. 教科満足度と授業改善点.....	50
4-6. 学校施設満足度と改善点.....	51

4-7. 教員のケア	55
4-8. 調査分析のまとめ	56
5章 結論.....	57
5-1. 研究成果.....	57
5-2. より有効に機能する夜間学校に向けての提言	57
5-2-1. 言語状況に応じた措置.....	58
5-2-2. 自主学習の支援.....	59
5-2-3. 施設の追加整備.....	60
5-2-4. 教員による対応.....	60
5-3. 今後の課題.....	60
付録1. 質問紙.....	62
付録2. Fitaurari Habite 夜間学校時間割	67
付録3. 使用可能言語別の教科理解度（算数以外）	68
謝辞.....	70
参考文献.....	71

序論

1. 研究背景

1990年にタイのジョムティエンで行われた「万人のための教育世界会議」は、基礎教育の拡大をテーマとし、全ての人の基礎的学習ニーズを満たすことを謳った「万人のための教育世界宣言」を採択した。同宣言では、2000年までに初等教育就学および修了の普遍化や成人非識字の半減を実現することを含む教育開発数値目標が示された（JICA, 2005b）。World Bank Data Bank¹のデータによれば、万人のための教育世界会議が行われた1990年には世界全体の初等教育純就学率²は82.3%であったが、最新の2018年データでは91.2%に上昇している。同様の期間にエチオピアの初等教育純就学率は19.1%から86.3%にまで劇的に改善を見せている。

就学率の上昇が歓迎すべき変化であることは言うまでもないが、エチオピアの初等教育に現在まで残された課題の一つに低い修了率が挙げられる。義務教育である初等教育8年間で修了するのは2014年のデータでも53.5%にとどまっている。世界全体の初等教育修了率³90.3%はもちろん、サハラ以南アフリカの68.7%と比較しても低い割合である。エチオピアの年齢別人口と初等教育純就学率および修了率から概算すると、711万人以上の初等教育就学年齢者が中退していることになる⁴。これほど多くの中退者が初等教育中退後、再度学習機会を得られないとすれば、教育分野のみならず、経済的、社会的にも多大な損害であることは明白である。エチオピア教育省でもこのような状況を鑑み、最新の教育ロードマップの中で、中退率の改善および中退経験者や成人非識字者向けの代替教育⁵の拡充が教育分野における重点課題であると言及している（MoE ESC, 2018）。

¹ World Bank Data Bank 〈<https://databank.worldbank.org/home>〉内に収録されているデータを使用した。

² 純就学率は就学年齢人口の総数を分母、就学年齢人口の中で実際に就学している人数を分子として算出される。よって100%を上回ることはない。一方、総就学率は就学年齢人口の総数を分母、年齢にかかわらず実際に就学している人数を分子として算出されるため、就学年齢以外の就学者数が増加すれば100%を上回ることもある。

³ 修了率は、初等教育最終学年年齢の人口を分母とし、年齢に関係なく初等教育最終学年に在籍している生徒数から同学年に留年して在籍している生徒数を除いた数を分子として算出する。正規年齢を超過して在籍している生徒が多ければ100%を上回ることもあり得る。

⁴ 初等教育就学年齢人口×初等教育純就学率×（100-初等教育修了率）で概算している。初等教育就学年齢はエチオピアの初等教育就学年齢に該当する6~13歳の人口データがないため、6~12歳人口の1840万人（2015）を、初等教育純就学は84.6%（2014）を、初等教育修了率は54.3%（2014）をそれぞれ用いている。

⁵ 本稿では、教育省が定める期間や履修内容通りに行われる昼間公立校および私立校での教育を正規教育とし、その他の学習機会を代替教育と定義する。

しかし、ある程度蓄積がある中退要因に関する研究（谷口,2017, Shafique, 2013, Hailu, 2019 など）に比べ、中退後の生活や復学経緯、中退後の教育機会に関する研究は少ないのが現状である。そこで、本研究はエチオピアにおける初等教育中退問題の中でも、特に中退後の教育機会に着目し、中退者にとって有効に機能する教育とはどのようなものか、中退者の教育機会をより有効なものにするためにできることは何かを大きなテーマとしている。

エチオピアにおける就学率の急速な改善傾向から、修了率においても同様の改善が今後短期間に起こり得るのではないかと、そうであるとすれば中退後の教育機会について議論する妥当性は薄いのではないかと、という意見も予想される。しかし、1994年の19.1%から2014年の86.3%にまで急激に改善した初等教育純就学率に比べ、同様の期間に初等教育修了率は14.1%から53.5%に改善したにすぎない。さらに、2004年からの10年間における修了率の上昇はたった4%にとどまり（World Bank Data Bank）、改善速度の鈍化も指摘できる。就学率の上昇に対して修了率の改善が課題であること、また、修了率の改善速度を考慮しても、中退後の教育機会について議論する意義は大きいと考えられる。

さらに、エチオピア政府は2020年度から教育システムの大規模な改革実施を発表しており、現在採用している初等教育、前期中等教育、後期中等教育8-2-2制を廃止し、6-2-4制に変更する（Nazret.com, 2019）ほか、義務教育期間における就学義務の厳格化や各地域言語を教授言語とする期間の延長など大幅な制度変更が見込まれている⁶。アフリカ地域ではEducation for All（万人のための教育）の概念が、“Schooling” for All（万人のための「学校」）になってしまったとの批判の声がある（JICA, 2005a）が、エチオピアの教育分野が教育制度改革に端を発する過渡期の中で、中退者の受け皿となる教育機会の提供に尽力することは、本来のEducation for Allの概念に立脚した教育のあり方を実現する布石になると考える。

エチオピアは、東アフリカの「アフリカの角」と呼ばれる地域に位置する、連邦共和制国家である。人口は1億922万人（2018年時点）であり、アフリカでナイジェリアに次いで2位の人口を有する。また、アムハラ族、オロモ族、ティグライ族など、国内に約80の民族を有する、多民族、多言語国家である。一人当たり国民所得（GNI）は790USD（2018年時点）であり、低所得国⁷のひとつに分類される（World Bank, 2018）。このような特徴を持つエチオピアにおいて、初等教育中退および再教育機会について検討することは、低所得国に分類される発展途上国、特に多民族多言語を特徴とする国家における代替教育のあり方について考える一事例になるものと考えられる。

⁶ 教育制度改革に関する内容は2019年10月の二次調査でエチオピアに渡航した際に参加した、JICA エチオピア事務所の教育セクター担当現地スタッフが開催する教育制度改革に関する説明会で得た情報に基づいている。

⁷ 世界銀行による分類では、一人当たり国民所得が1,005USD以下の国を低所得国、1,006~3,995USDの国を下位中所得国、3,996~12,235USDの国を上位中所得国、12,236USD以上の国を高所得国としている（World Bank, 2018）。

2. 研究目的

中退後に再度教育機会を得るには、大きく2通りの方法があると考えられる。1つ目は初等教育機関に復学する方法、2つ目は代替教育機関に就学する方法である。

1つ目の方法に関して、エチオピアの公立初等教育機関では中退後も年齢や非就学期間にかかわらず復学を認める制度があるが (MoE, 2011)、実際に制度を活用して復学を果たしているのは中退者のうち2割程度にすぎない (JICA, 2012)。また、既存研究からは復学者と非復学者の相違点については明らかになっていない。

2つ目の方法に関しては、教育省が実施している Integrated Functional Adult Education (IFAE) という2年間の成人識字教育プログラム (MoE, 2017) および、UNICEF が実施している Alternative Basic Education (ABE) という遠隔地の初等教育未就学者を対象としたプログラム (UNICEF, 2017) が知られているが、エチオピアの代替教育プログラムについて体系的にまとめた文献資料は見当たらない。

また、本研究を進める中で、中退者のニーズに最も適合していると考えられた代替教育機会は夜間学校であったが、一次調査において出席状況や修了試験合格率に課題があることが確認された。成人教育における欠席理由は就業との両立が困難であるためと説明されてきたが (Pankhurst, 2015, 齋藤, 2005)、就業以外の要因から出席状況を分析した研究は見られない。

そこで本研究では以下の3つを研究目的とする。

1. 復学者と非復学者の違いを明らかにすること。
2. エチオピアで実施されている代替教育の分析を行うこと。
3. 夜間学校における低い出席率と修了試験合格率に影響を与える要因を就業状況以外から明らかにすること。

3. 研究手法と本論文の構成

本研究では、文献調査および二度の現地調査を実施した。文献調査では、教育制度や教育統計に関するエチオピア教育省や国際機関の文献と、中退および復学、代替教育に関する各国の研究論文を中心にレビューを行った。

現地調査は一次調査と二次調査に分けて実施した。一次調査では、首都アディスアベバおよびオロミア州で、初等教育復学者、非復学者、代替教育機関復学者を対象とした半構造化インタビューおよび公立初等教育機関と代替教育機関の視察とデータ収集を実施した。二次調査では、アディスアベバの夜間学校を対象とし、生徒への質問紙調査および学校保有データの収集を行った。本稿の結論部分では二次調査の結果をもとに、より有効に機能する夜間学校に向けた提言を行なった。

本稿の構成は以下の通りである。第1章ではエチオピアの教育制度と教育政策について概観し、本研究の背景ともなるエチオピアの初等教育の現状を教育関連統計から確認する。第2章では中退後の復学とエチオピアにおける代替教育に関する既存研究を整理し、復学者と非復学者の相違点およびエチオピアにおける代替教育の現状を把握するために行った一次調査について述べる。第3章では一次調査の結果を踏まえ、本研究の焦点とした夜間学校および出席状況に影響する要因に関する既存研究を整理し、アデイスアベバの夜間学校で実施した二次調査の方法と調査対象校の概要を記す。第4章では二次調査の結果を示し分析を行う。終章となる第5章では結論として本研究の成果を述べ、より有効に機能する夜間学校に向けた提言を行う。加えて、今後の課題を提示する。

1 章 エチオピアにおける教育制度および初等教育の現状

1 章では、現行の制度と来年度から導入予定の新制度とを併記しながら、エチオピアにおける教育制度を概観する。また、エチオピアの教育制度改革について、本研究の焦点である代替教育や成人教育、ノンフォーマル教育⁸に関連する記述を整理して示す。さらに、本研究の背景ともなる初等教育の現状について教育関連統計を用いて確認する。

1-1. エチオピアにおける現行の教育制度と新制度

2019 年 8 月、エチオピア政府は 2020 年度から教育制度の大規模な改革を実施すると発表した。

現在採用している教育システムは図 1-1 に示す通り、初等教育 8 年間、前期中等教育 2 年間、後期中等教育 2 年間の 8-2-2 制である。これを新制度の下で、初等教育 6 年間、前期中等教育 2 年間、後期中等教育 4 年間の 6-2-4 制に変更する。これに伴い、現在は初等教育 8 年間のみである義務教育の範囲も、就学前教育から前期中等教育（第 8 学年）までに改正される（Nazret.com, 2019）。

現制度では義務教育の範囲を定めながらも、義務を果たさない、つまり就学しなかった場合の罰則的措置は設けられていないが、新制度では保護者の就学をさせる義務について明確化し、保護下にある児童生徒を就学させなかった場合の罰則的措置も定められる。具体的には、児童生徒が非就学になった場合に、無償化している学費負担を罰金として学校が保護者に請求することができる仕組みを導入するという⁶。

現行制度、新制度ともに、制服や筆記用具などの学用品は自己負担であるが、中等教育（第 12 学年）までの公立校の学費は原則無料である。教育機関の年度は 10 月から開始され、6 月末に終了するため、7~9 月の 3 ヶ月間は雨季休みと呼ばれる長期休暇期間である。

⁸ JICA(2005a)によると、制度化された学校システム内での教育活動がフォーマル教育であるとする、ある目的をもって組織される学校教育システム外の教育活動がノンフォーマル教育である。

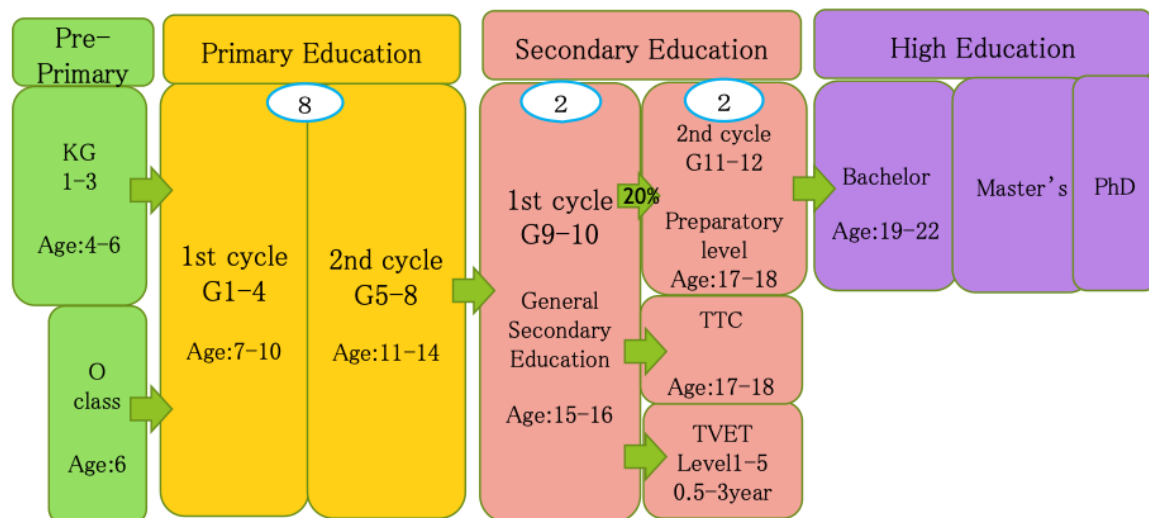


図 1-1 エチオピアの教育制度

(出典：Ministry of Education. (2017). Education Statistics Annual Abstract 2009 E.C. をもとに筆者作成)

1-1-1. 就学前教育

現行の制度では、初等教育の前には就学前教育として3年間の幼稚園または1年間の0クラスが設けられている。就学前教育の就学率は49.5%（男子50.8%、女子48.3%）であり、就学前教育を受ける者のうち、73%が0クラスに通園している（MoE, 2017）。

新制度では、現在1年間である0クラスを2年間にし、幼稚園と0クラスに分かれている就学前教育を0クラスに一本化する。さらに就学前教育を重視する観点から、2年間の0クラスを義務教育化し、公立校私立校共に初等教育機関の敷地内に0クラスの施設を設けることが定められる。

1-1-2. 初等教育

現在、エチオピアの初等教育は8年間で、就学開始年齢は満6歳と定められている。全国には計35,838校の初等教育機関があり、教師一人当たりの生徒数は全国平均で43人となっている（MoE, 2017）。8年間は4年ずつファーストサイクルとセカンドサイクルに分かれているが、学校によってファーストサイクルだけの学校とファーストサイクルとセカンドサイクルを合わせた完全校が存在する。日本のように自動進級制ではないため、第1学年から第7学年までは進級評価があり、学年末に学校レベルで行われる試験結果と日々の学習態度の総合評価によって進級可否が決められる。初等教育最終学年である第8

学年末には、州ごとの修了試験があり、これに合格すると初等教育を修了することができ、修了証が授与される。

新制度下で初等教育は、現在の 8 年間から 6 年間に変更され、現在満 6 歳である就学開始年齢は満 7 歳に引き上げられる⁹。進級制度は現行の制度を踏襲するが、最終学年が第 6 学年となるため、初等教育修了試験は第 6 学年末に実施となる。

また、専門外の教員が授業を行うことで教育の質低下を招いているとの観点から、現在第 1 学年と第 2 学年に限り導入している担任教師が全教科を指導する学級担任制を廃止し、入学時から全学年に渡り専門科目ごとの教師が指導する教科担任制を採用する。初等教育児童を対象に週 1 コマのモラル教育を導入することも決定している。

1-1-3. 中等教育および高等教育

初等教育を修了した者は、中等教育に進むことができる。中等教育は中学校にあたる前期中等教育 2 年間でファーストサイクル、高等学校に当たる後期中等教育 2 年間でセカンドサイクルとしている。学年は初等教育から通算するため、前期中等教育は第 9 学年と第 10 学年、後期中等教育は第 11 学年と第 12 学年である。エチオピア全国には計 3,393 校の中等教育機関があり、中等教育ファーストサイクルにおける教師一人当たりの生徒数は全国平均で 27 人、セカンドサイクルでは 22 人となっている (MoE, 2017)。

前期中等教育の最終学年である第 10 学年末に州ごとの修了試験があり、この試験の結果によって卒業後の進路が振り分けられる。上位 20% の生徒は 2 年間の高等学校に進学することができる。高等学校は高等教育 (大学) の準備教育として位置づけられており、ここに進学できた者だけが大学受験の資格を持つ。下位 80% の生徒は TTC (Teacher Training Course) と呼ばれる 2 年制の教員養成校や TVET (Technical and Vocational Education and Training) と呼ばれる 1~5 年制の職業訓練校に進学するか、学業から離れる選択をすることになる。そのため、中等教育ファーストサイクルの純就学率 24.6% (男子 24.1%、女子 25.1%) に対し、セカンドサイクルの純就学率は 7.4% (男子 7.6%、女子 7.2%) と大幅に減少する (MoE, 2017)。

新制度下の中等教育は、中学校にあたる前期中等教育 2 年間 (第 7~8 学年) をファーストサイクル、高等学校に当たる後期中等教育 4 年間 (第 9~12 学年) をセカンドサイクルとする。

新制度では、現行制度の下で後期中等教育および高等教育進学者が限定されてしまう点を改善し、高等教育進学への間口を広げることを目的に様々な制度化改革が実施される。まず、後期中等教育を成績上位者のための特別学校、現在と同様に高等教育の準備段階の意味合いを持つ高等学校、職業訓練校 (TVET)

⁹ ただし、入学後 3 ヶ月以内に 7 歳の誕生日を迎える者まで入学を認める。

の3種類に分化させ、進学可能割合の上昇を目指す¹⁰。TVET は現在内容によって1~5年制のコースを設けているが、これを1~8年制とし、より高度な学習内容の提供を目指すと共に、コースによってはTVET から大学に進学することも認められるようにする。

また、教員資格の取得方法について大幅な改正が行われる。現制度では前期中等教育（第10学年）修了後、2年制の教員養成校（TTC）に進学し取得するが、新制度では就学前教育の教員でも高等学校（第12学年）修了後、3年制の専門学校に進学する必要がある。初等教育および前期中等教育の教員は高等学校（第12学年）修了後、4年制の大学、後期中等教育の教員に至っては修士以上の学歴が求められる。これらの教員資格をめぐる制度変更は、言うまでもなく教員の質を底上げすることがねらいであるが、実施にあたり未解決の課題も多い。第一に、多数在籍する無資格の現職教員の処遇が定められていないこと。第二に、教員給与¹¹は有資格者の初任給で861ブル¹²、大卒で1,571ブルであるが（JICA, 2012）、州の教育予算に占める教員給与の割合は92%（World Bank, 2008a）と高く、これ以上の給与上昇が担保できない状況にあること。第三に、旧軍事政権の影響等によりエチオピアにおける教員の社会的地位は低く（Olango ほか, 2008）、高学歴者の中では特に希望者が少ないと予測されることである。

1-1-4. 教育における使用言語

エチオピアは国内に80もの民族が暮らす多民族国家であり、9つの州と2つの自治区¹³からなる。国家としての公用語はアムハラ語であるが、オロミア州ではオロモ語、ティグライ州ではティグライ語というように地域ごとに定められた州言語を持っているため、教育分野でも初等教育の一定期間では地域によって教授言語や教科書の言語が異なる。

現行の制度では、初等教育ファーストサイクルである第4学年までは母語である各地域言語が教授言語として用いられ、セカンドサイクルである第5学年からは英語に変更される。言語科目としては初等教育第1学年から、公用語であるアムハラ語と英語の学習が開始される。

一方、新制度では、母語である各地域言語をより重視し、就学前教育から教科として学習するほか、教授言語としても前期中等教育（第8学年）までは各地域言語を使用するとしている。英語が教授言語となるのは後期中等教育（第9学年）からとなり、現行制度と比較し大幅に遅くなる。言語科目としての英語

¹⁰ 現行制度の下では上位20%の生徒しか後期中等教育に進学できない状況を打開する目的であるが、実際の進学可能割合などは明らかにされていない。

¹¹ 教員給与は州ごとまたはワレダ（州の下に置かれる行政区）ごとに定められており、記載したのはオロミア州メル・ワレダの2012年時点での給与である。

¹² 1ブルは3.38円（2020年1月現在）

¹³ アディスアベバ自治区、アフール州、アムハラ州、ベニシャングル・グムズ州、ディレ・ダワ州・ガンベラ州、ハラリ州、オロミア州、ソマリ州、南部諸民族州、ティグレイ州。

教育は現行の制度と同様に初等教育第1学年から開始されるが、公用語であるアムハラ語は初等教育第3学年から学習することとなる。また、新たな試みとして、州ごとに選択したもう一つ他の地域言語を第3学年から学習する。この試みは州ごとの親交を促進することをねらいとしており、第3学年からはエチオピアの国内言語だけで2~3種類の言語¹⁴を学ぶことになるのである。

1-2. エチオピアの教育政策

現行の教育制度に至るまでのエチオピアにおける教育政策について概観する。特に、本研究の焦点である代替教育や成人教育、ノンフォーマル教育に関連する記述を中心に整理して示す。

1-2-1. 教育訓練政策 (Education and Training Policy/ ETP)

1991年に社会主義軍事政権を倒し成立したエチオピア人民革命民主戦線 (EPRDF) の暫定政権の下、1994年に教育訓練政策 (Education and Training Policy/ ETP) が制定された。教育訓練政策では、現行の教育システムの基礎となる初等教育8年間、前期中等教育2年間、後期中等教育2年間の8-2-2制のほか、第8学年、第10学年、第12学年末には修了試験を実施すること、初等教育ファーストサイクルにおける教授言語は母語である各民族語とすることなどが定められた。

教育訓練政策における全体目標としては以下の5つが挙げられている。(1)万人のための基礎教育の提供と普及によって個人の身体的精神的潜在能力および問題解決能力を発展させる。(2)教育の私的および社会的な利益を向上させることによって、様々なスキルを習得し資源を賢く運用できる市民を育成する。(3)人権を尊重し、民主的文化に基づいた平等、正義、平和と人々の福利を擁護する市民を育成する。(4)有害な慣行と有用な慣行を区別し、真実を求め擁護し、科学技術の普及と発展に対し前向きな姿勢を示す市民を育成する。(5)教育を環境と社会的ニーズに適切に関連づけることにより、市民の認知的創造的生産的潜在能力を育成する。また、以下の表1-1に示すのが全体目標の後に続く15項目の小目標であるが、小目標の1つ目には、フォーマルおよびノンフォーマルのプログラムを通して適切な教育と訓練を提供することが挙げられており、必要な教育機会の提供方法として当初からノンフォーマルプログラムも視野に入れていたことがうかがえる。ノンフォーマル教育については全てのレベルのフォーマル教育と統合され提供されるとしており、より具体的な学習内容の提供により学習者が問題解決能力を身につけることを目指すとしている(MoE, 1994)。

¹⁴ 母語がアムハラ語である地域では2種類、その他の地域では3種類の国内地域言語を学ぶことになる。

表 1-1 教育訓練政策(ETP)における特別目標

(1) フォーマルおよびノンフォーマルプログラムを通して適切な教育と訓練を提供する
(2) 生徒の好奇心を豊かにし創造力を向上させる
(3) 障害のある者も才能のある者も潜在能力とニーズに合わせて学ぶことができる
(4) 様々なレベルの職業訓練において基礎教育と統合的知識を提供する
(5) 様々なスキルトレーニングの提供によって国の人材へのニーズを満たす
(6) 調査に基づき、教育、訓練、研究と開発を適切に統合させる
(7) 世俗の（宗教とは無関係の）教育を提供する
(8) 教育を伝統技術を発展させ近代技術を活用するための支援とする
(9) 民主主義文化、異文化への寛容と平和的解決、社会責任の遂行を推進する教育の提供
(10) 民主的統一、自由、平等、尊厳、正義を擁護する道徳的な市民を育成する教育を提供する
(11) 労働に対する尊敬の文化、前向きな労働慣習、技術への敬意を推進する教育の提供
(12) 1 言語を国内、1 言語を国際コミュニケーションのために提供すると同時に、各言語で学ぶ国/国籍の権利を認める ¹⁵
(13) 開発における女性の貢献と役割に関する価値を見直し社会の態度変容に向けて教育を行う
(14) 国内外の環境に見識を持ち、国の歴史遺産と自然資源を守る市民を育成する教育の提供
(15) 私的公的財産を適切に管理し利用するスキルを身につけた市民を育成する教育を提供する

出典：Ministry of Education. (1994). Education and Training Policy.より翻訳

1-2-2. 教育セクター開発プログラム (Education Sector Development Program/ ESDP)

1997 年には、5 年間の教育開発プログラムである教育セクター開発プログラム (Education Sector Development Program/ ESDP I 1997/8~2001/2) が策定される。このプログラムはその後現在まで継続化されており、現在は ESDP V (2015/6~2019/20) の実施期間である。

ESDP I (1997/8~2001/2) では初等教育を中心としたアクセスの拡大が最重要課題として挙げられ、地方分権化および教育内容と教育行政の民主化によるアクセスの確保が示された。ESDP II (2002/3~2004/5) においてもアクセスの拡大は引き続き最優先事項とされた。特に Education For All

¹⁵ 特別目標の文中においては具体的な言語の種類は示されていないが、同文献内の詳細を確認すると、国内コミュニケーションのための言語がアムハラ語、国際コミュニケーションのための言語が英語を指しており、これら 2 言語の学習機会を提供すると同時に、州ごとの民族語を教授言語として教育を受ける権利を保障するという内容であることがわかる。

の観点からアクセスの平等に注力する姿勢が示され、男女格差および地方格差是正のため、費用対効果の高い複式学級や実施時間に柔軟性のあるノンフォーマル教育を積極的に取り入れる方針を示した (Ministry of education, 2002)。ESDP III (2005/6~2009/10) では、初等教育に対する全国学習評価および5年ごとのカリキュラム改正を行い学習内容の適切性を確保することが定められた。また、各州に対し母語で学ぶことができる成人識字教育の機会を設けることを推進し、識字教育を通して HIV/AIDS 予防や家族計画を含む保健衛生分野、農業や家計管理を含む生活改善分野の知識習得を目指すとした (MoE, 2005)。ESDP IV (2010/11~2014/5) では、教育の質向上が優先課題として示され、アクセスについては初等教育だけでなく就学前教育や中等教育のアクセス拡大にも注力するとされた。成人教育の文脈では、機能的成人識字 (Functional Adult Literacy/FAL) に注目し成人教育機会の拡大を図るとした (MoE, 2010)。最新の ESDP V (2015/6~2019/20) においても教育の質向上は引き続き優先課題とされている。さらに教育の内部効率性の改善も課題として指摘されており、行政機関や教育機関各レベルでの管理能力向上を目指すとされている。成人教育およびノンフォーマル教育の分野では識字率の改善が継続して課題となっており、Integrated Functional Adult Education (IFAE) という成人非識字者を対象とした2年間のプログラムを策定している (MoE, 2015)。

1-2-3. 一般教育の質改善プログラム (General Education Quality Improvement Program/GEQIP)

ESDP III の期間にあたる 2009 年に世界銀行の支援を受け、一般教育の質改善プログラム (General Education Quality Improvement Programme/GEQIP) が開始される。GEQIP は、(1)カリキュラム・教科書・評価 (2)英語の質改善プログラムを含む教師教育 (3)学校改善プログラム (4)管理運営プログラム (5)モニタリング評価を含むプログラム管理の5つの項目からなり、ESDP IV 以降の教育政策には GEQIP の内容も反映されている (MoE, 2008/ World Bank, 2008b)。

1-2-4. 国家成人教育戦略 (National Adult Education Strategy/NAES)

2008 年には機能的成人識字政策として国家成人教育戦略 (National Adult Education Strategy/NAES) が策定された。国家成人教育戦略では、(1)成人教育の拡大を通して民主主義とガバナンスの文化を築く (2)成人教育の拡大を通して社会生活に変化をもたらす (3)質が高く適切な成人教育を通して持続可能な経済発展を保障する、という3点を目標とし、成人教育普及の必要性を述べている (MoE, 2008a)。

国家成人教育戦略の下、非識字者向けの教育機会としては、教育省が主導する Integrated Functional Adult Education (IFAE) という2年間のプログラムが2010年より実施されている。識字教育と保健衛生

分野や農業分野などの生活知識を合わせて学べる機会としているが、2年間継続して学ぶ者が少ない、プログラム修了後の教育機会が不十分であるため識字能力が定着しないなどの課題も指摘されている (Mo E, 2015)。

1-3 初等教育における中退および復学に関する現状

就学継続の課題と中退および復学に関する現状について以下で概観する。

1-3-1. 統計指標の算出方法

まず、本稿で用いる統計指標の算出方法を以下に示す。

- ①総就学率：総就学率は、就学年齢人口¹⁶の総数を分母、年齢にかかわらず実際に就学している人数を分子として算出される。就学年齢以外の就学者数が増加すれば100%を上回ることがある。
- ②純就学率：純就学率は、就学年齢人口の総数を分母、就学年齢人口の中で実際に就学している人数を分子として算出される。よって100%を上回ることはない。
- ③修了率：修了率は、初等教育最終学年年齢の人口を分母とし、年齢にかかわらず初等教育最終学年に在籍している生徒数から同学年に留年して在籍している生徒数を除いた数を分子として算出する。正規年齢以外の在籍生徒が多ければ100%を上回ることもあり得る。
- ④中退率：前年の在籍者数（第1学年の場合は入学者数）を分母とし、前年の在籍者数（第1学年の場合は入学者数）から進級した者と留年した者を除いた数を分子として算出する。
- ⑤残存率：入学者数を100とし、学年ごとに中退率を乗じた人数を除いていき、最終学年まで残った数。

1-3-2. 就学率の改善と就学継続の課題

エチオピアでは1990年代より急激な就学児童数の増加が見られ、1994年に19.1%であった初等教育純就学率は2014年には86.3%にまで劇的に改善を見せている (World Bank Data Bank)。一方で、就学の継続には課題が残されており、義務教育である初等教育過程8年間の修了率は53.5%にとどまっている (World Bank Data Bank)。年齢別人口と初等教育純就学率および修了率から概算すると、約711万人もの初等教育就学年齢者が中退していることになる⁴。

¹⁶ 就学年齢（エチオピアの初等教育においては6~14歳）にある人の数

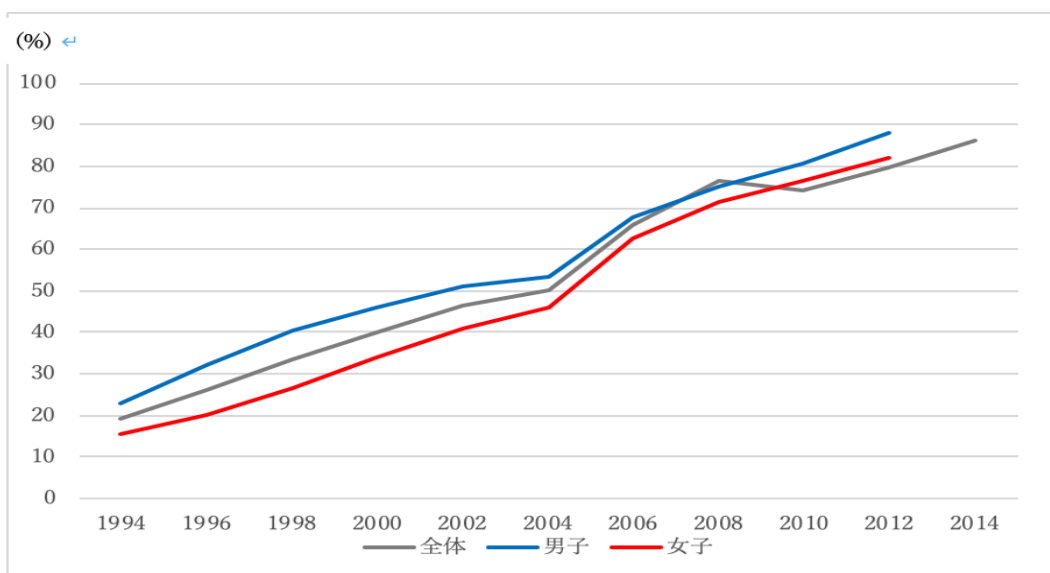


図 1-2 エチオピアにおける初等教育純就学率の推移（出典：World Bank Data Bank データより筆者作成）

図 1-3 は 2013 年度時点での初等教育中退率を学年別男女別に示したものである。初等教育入学者の 26%が第 2 学年に進級する以前に中退していることがわかる。第 6 学年までは大きな男女差は見られないが、第 7 学年中退率では男子 5.9%に対し女子 8.5%、最終学年である第 8 学年では男子 11.6%に対し女子 15.3%といずれも女子の方が中退率が高いことが読み取れる。表 1-2 には学年別中退率をもとに、入学者数を 100 人としたときの各学年の残存数を示した。入学者数を 100 人としたとき、最終学年である第 8 学年を終えることができるのはわずか 29 人である。

エチオピアの 15 歳以上識字率は 49.1%（男性 39.0%、女性 28.9%）と低く（MoE EMIS and ICT Directorate, 2018）、教育課題のひとつとなっている。初等教育入学者の 4 人に 1 人が第 2 学年に進級する以前に中退しており、基本的な読み書きを習得する前に教育機会から離脱している者が多く存在することが、低い識字率の一因となっていると予測される。

このような状況を鑑み、エチオピア教育省も最新の教育ロードマップの中で、中退率の改善および中退経験者や成人非識字者向けの代替教育の拡充が教育分野における重点課題であると言及している（MoE ESC, 2018）ほか、来年度から実施予定の教育改革においても、義務教育期間に児童を就学させない保護者に対する罰則措置を導入するなど、中退防止策を検討している。

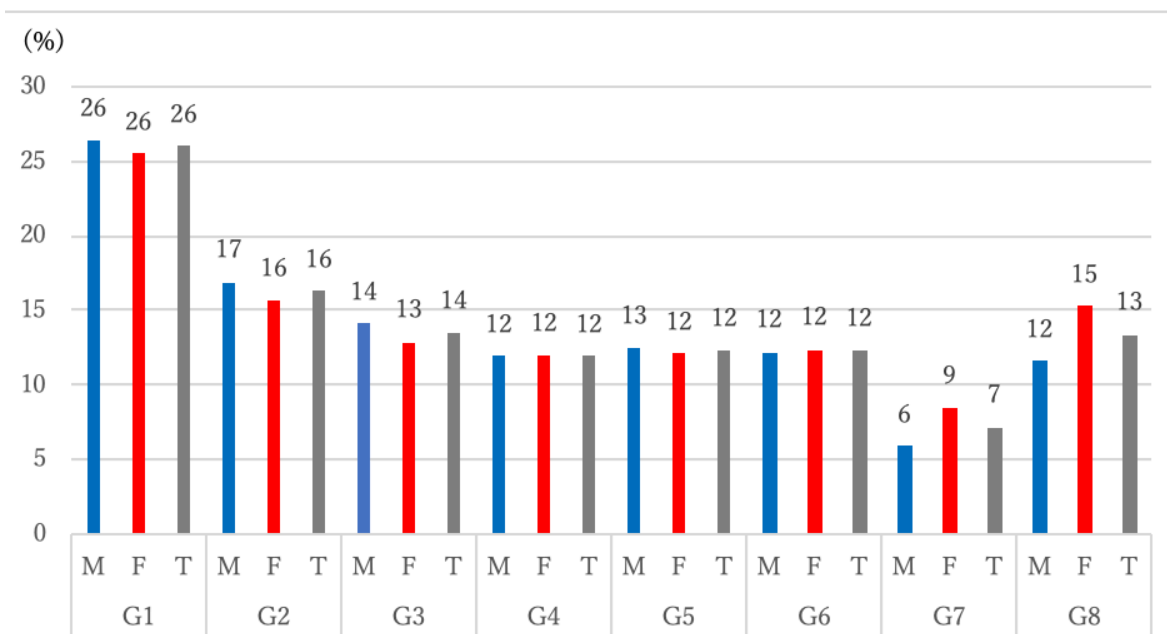


図 1-3 学年別初等教育中退率 (2013 年度) (出典: World Bank Data Bank データより筆者作成)

表 1-2 エチオピアにおける学年別初等教育残存率 (2013 年度)

	G1	G2	G3	G4	G5	G6	G7	G8	修了時
残存数	100	74	62	54	47	41	36	34	29
中退率	26.0%	16.3%	13.5%	11.9%	12.3%	12.3%	7.2%	13.4%	-
中退数	26	12	8	6	6	5	3	5	-

出典: World Bank Data Bank データより筆者作成

1-3-3. 初等教育中退と復学の現状

エチオピアの公立初等教育機関では中退後も年齢や非就学期間にかかわらず復学を認める制度がある (MoE, 2011)。では、中退者の何割が復学を果たしているのだろうか。表 1-3 は、2009 年度のデータをもとに中退者に対する復学者の割合を復学率として算出したものであり、図 1-4 は復学率を学年別にグラフに示したものである。第 4 学年および第 7 学年の女子 (31.1%、67.3%)、第 8 学年の男子 (87.0%) の復学率が例外的に高いが、他の学年においては概ね 10%前後となっており、中退者に対する復学者の割合が決して高くはない現状が理解できる。また、第 1 学年の復学率が男女共に最も低い (男子 3.7%、

女子6.2%)、初等教育入学者の26%が第2学年に進級する以前に中退している事実も合わせて考慮すると、入学者の4人に1人は入学後1年以内に中退したまま復学できない状況にあることが示唆される。

中退後の復学を制限しない制度の下であっても、復学に至る者の割合は平均2割程度と決して高くなく、復学制度だけでは中退者の一部にしか再度の教育機会を与えることができないとわかる。

表1-3 初等教育における学年別男女別の中退者に対する復学者の割合

	2009/10 中退者数			2009/10 復学者数			2009/10 復学率		
	男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体
G1	451,659	358,870	811,026	16,575	22,283	38,858	3.7%	6.2%	4.8%
G2	137,388	115,718	243,204	13,592	20,873	34,465	9.9%	18.0%	14.2%
G3	179,284	151,680	330,389	12,399	19,564	31,963	6.9%	12.9%	9.7%
G4	60,216	63,662	123,284	11,551	19,731	31,282	19.2%	31.0%	25.4%
G5	133,150	110,701	243,351	10,364	19,315	29,679	7.8%	17.4%	12.2%
G6	109,959	106,335	216,448	7,012	14,514	21,526	6.4%	13.6%	9.9%
G7	34,388	21,010	55,959	6,637	14,132	20,769	19.3%	67.3%	37.1%
G8	95,405	59,018	154,464	83,014	10,126	93,140	87.0%	17.2%	60.3%

出典：JICA. (2012). 基礎教育セクター情報収集・確認調査 国別基礎教育セクター分析報告書：エチオピア.および World Bank Data Bank より筆者作成

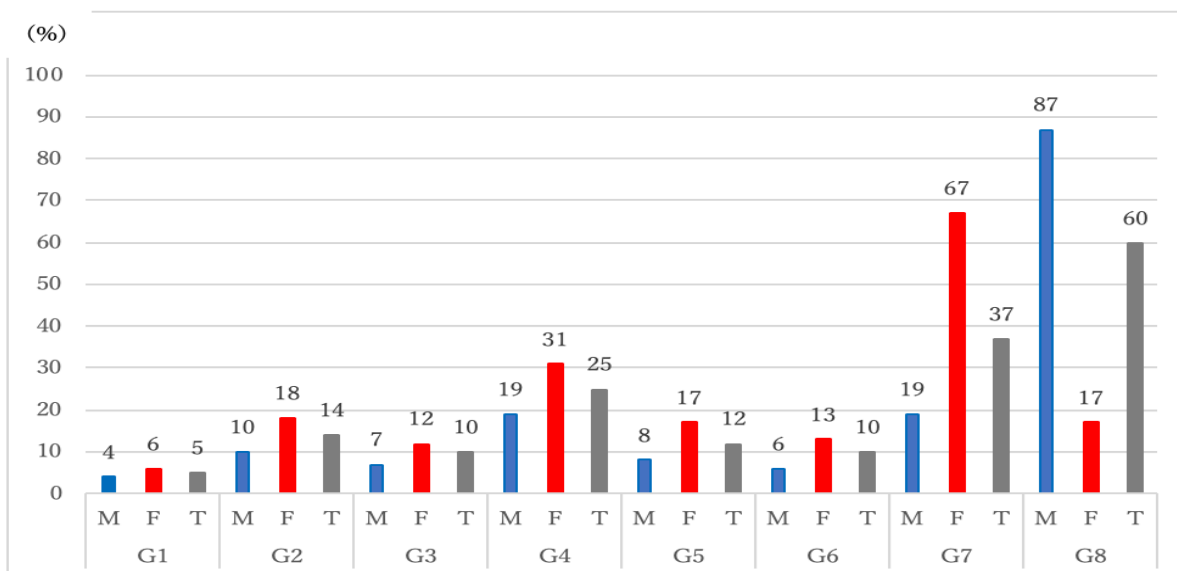


図1-4 学年別初等教育復学率（2009年度）

（出典：JICA. (2012). 基礎教育セクター情報収集・確認調査 国別基礎教育セクター分析報告書：エチオピア.
 および World Bank Data Bank より筆者作成）

2章 中退後の復学および代替教育プログラムに関する一次調査

前章において、エチオピアの初等教育中退および復学に関する教育統計から、初等教育残存率が29%にとどまること、中退後復学を制限しない制度の下にあっても、実際に復学を果たしている者は2割程度にとどまることなどが確認された。このような状況から、中退を防止する観点だけでは不十分であり、既に中退した者の受け皿となる教育機会についても検討する必要があるといえる。しかし、ある程度蓄積がある中退要因に関する研究（谷口,2017, Shafique, 2013, Hailu, 2019 など）に比べ、中退後の生活や復学経緯、中退後の教育機会に関する研究は少ないのが現状である。

そこで本章では、まず、中退および復学ならびに、エチオピアで実施されている代替教育プログラムに関する既存研究の整理を行う。続いて、文献調査からは十分な情報が得られなかった復学者と非復学者の相違点や代替教育プログラムの詳細について明らかにすることを目的として行った一次調査の方法と結果について述べる。

2-1. 初等教育中退および復学に関する既存研究

まず、初等教育中退および復学に関する既存研究について整理する。教育中退の理由や関連要因について明らかにした研究は多数存在している。例えば、マラウイ農村部における初等教育中退要因を個人要因、家庭要因、学校要因、教員要因に分類して影響を分析した谷口（2017）の研究では、個人要因では初等教育入学時の年齢と留年有無、家族要因では両親の有無が中退に影響を与えると結論づけている。アフガニスタンにおける初等教育中退理由を男子校と女子校で比較した Shafique（2013）の研究では、男子の中退理由は児童労働が多数を占める一方で、女子の中退理由は学校が遠方であることおよび学校施設が適切でないことであったと述べられている。エチオピアにおける研究では、Hailu（2019）が南部諸民族州で中退者やその家族、教員を対象に行ったインタビュー調査から初等教育中退の理由を明らかにしている。Hailu（2019）によると、初等教育中退における最も大きな要因は資金不足であり、文房具や制服など通学に必要な物品が購入できないといった理由から、家計を支えるために親元を離れ都市部に出稼ぎに行くため就学の継続ができないといった理由も示された。その他の理由としては、教育に対する動機や興味の不足、女子の早期結婚を含む文化慣習、母語とする民族語と教授言語が異なり学習が困難となる問題、教員による体罰などが挙げられている。

一方、復学に関する研究はエチオピアの事例に限らず不足しており、何らかの形で就学を題材とした研究の中で一部の事例として論じられるにとどまっている。例えば、ラオスにおける村教育委員会が初等教育就学に与える影響を分析した平良（2011）の研究の中では、村教育委員会長を担当する村長が保護者と面談することで復学を促すことができた事例が紹介されている。バングラデシュ農村部における中等

教育就学の選択について分析した南出(2010)の研究の中では、出稼ぎから戻って復学する生徒の事例を取り上げ、就学と就労は連続的というより状況に応じて取捨選択可能な存在であると結論づけている。しかし、復学に至る経緯や中退後復学できるものとできない者ではどのような違いがあるのかなどについての研究は見られない。

2-2. エチオピアで実施されている代替教育に関する既存研究

エチオピアの代替教育について、文献から実施が把握できたプログラムは2つであった。

1つ目は教育省が2010年より実施している Integrated Functional Adult Education (IFAE) という2年間の成人識字教育プログラムである。15歳以上の非識字者を対象とし、識字教育と保健衛生分野や農業分野などの生活知識を合わせて学べる機会を提供している。正規教育との同等性はなく¹⁷、独立したプログラムであるが、エチオピア教育省によると2017年までに100万人以上が参加している(MoE, 2017)。

2つ目はUNICEFによる Alternative Basic Education (ABE) である。アフール州、ソマリ州、オロミア州、ベニシャングル・グムズ州の4州の遠隔地における初等教育就学年齢の子どもを対象とし、初等教育ファーストサイクルにあたる1~4年次の教育を実施している。中退者も対象としているが、学校が居住地から遠いまたは通学可能な範囲にないために非就学となっている子どもを主な対象とするものである。正規教育との同等性を保障されたプログラムであるため、プログラム修了後は初等教育5年次に編入が可能である(UNICEF, 2017)。

上記2つの事例はあるものの代替教育に関する研究や資料は少なく、現地で実施されている代替教育の詳細を二次資料から把握するのは困難であった。

2-3. 一次調査の目的

研究背景となった教育統計および既存研究の内容を踏まえ、エチオピアにおける初等教育中退および復学と代替教育の現状を把握することを目的に2019年2月から3月の約5週間にわたり一次調査を実施した。特に既存研究で明らかにされていない、中退後復学に至る者とそうでない者の違いを明らかにすること、ならびに、エチオピアで実施されている代替教育の詳細を明らかにすることを目的とした。

¹⁷ 正規教育との同等性とは、プログラム修了資格が正規教育修了資格と同等に扱われ、次の段階の正規教育就学のための資格となり得ることである。初等教育と同等性が認められたプログラムを修了すれば、正規教育の中等教育機関に就学するための資格となる。

2-4. 一次調査の方法

一次調査では、国際協力機構 (JICA) のインターンとしてエチオピア事務所に赴任し、提案型インターンプログラムの一環として調査を実施させていただいた。

首都アディスアベバの初等教育機関 10 校とオロミア州アルシ県の初等教育機関 5 校、ならびに、夜間学校 3 校 (アディスアベバ)、スピードスクール 4 校 (オロミア州ウエストショワ県)、NGO 運営校 1 校 (アディスアベバ) などの代替教育機関を訪問し、視察および在校生徒数や中退者数、復学者数などの基礎データの収集を行った。訪問先教育機関を表 2-1 に、調査対象地を図 2-1 の地図上に丸印で示した。

また、中退後初等教育機関に復学した者 (以下、初等教育復学者) 20 名、中退後教育機会を得ていない者 (以下、非復学者) 11 名、中退後代替教育機関に就学した者 (以下、(代替教育復学者) 15 名それぞれに半構造化インタビューを行い、中退理由や復学に至る経緯、現在の生活や学習ニーズなどについて回答を得た。

なお、調査対象校のうち、アディスアベバの公立初等教育機関および NGO 運営校は、JICA エチオピア事務所の協力を得て紹介していただいた。オロミア州の公立初等教育機関は、オロミア州の教育省より紹介いただいた。夜間学校は訪問した公立初等教育機関の中で、夜間学校として夜間も授業を実施している学校に訪問した。スピードスクールは、実施主体であるコンサルタント会社 Geneva Global より紹介いただいた。

表 2-1 一次調査訪問先教育機関

学校名	所在地	種類	備考
Abiyot Fana	Nefas Silk Lafto, Addis Ababa	公立初等教育機関	完全校 ¹⁸ ・生徒数 1340 人
Betemengist	Arada, Addis Ababa	公立初等教育機関	完全校・生徒数 514 人
Fitaurari Habite	Kolfe Kerqnio, Addis Ababa	公立初等教育機関	完全校・生徒数 3535 人
Lideta Limat	Lideta, Addis Ababa	公立初等教育機関	完全校・生徒数 457 人
Mahel Ginfile	Arada, Addis Ababa	公立初等教育機関	完全校・生徒数 364 人
Meskerem	Kirkos, Addis Ababa	公立初等教育機関	完全校・生徒数 537 人
Tasfa Kokeb	Lideta, Addis Ababa	公立初等教育機関	完全校・生徒数 1342 人
Welha Yekatit	Kera, Addis Ababa	公立初等教育機関	完全校・生徒数 580 人
Deyu Debeso	Hetosa, Arsi, Oromia	公立初等教育機関	完全校・生徒数 686 人 午前午後入替制
Dhera	Dodota, Arsi, Oromia	公立初等教育機関	完全校・生徒数 1647 人 午前午後入替制
Eteya	Hetosa, Arsi, Oromia	公立初等教育機関	完全校・生徒数 2598 人 午前午後入替制
Sagura	Digalu, Arsi, Oromia	公立初等教育機関	完全校・生徒数 2357 人 午前午後入替制
Temela	Digalu, Arsi, Oromia	公立初等教育機関	完全校・生徒数 1058 人 午前午後入替制
Tokkoffaa Faciisoo	Dodota, Arsi, Oromia	公立初等教育機関	1~4 年のみ・生徒数 126 人

¹⁸ 完全校とは、初等教育 1～8 年を全て履修できる学校のことである。完全校に対し、初等教育ファーストサイクルにあたる 1～4 年のみを履修する学校もある。

			JICA 住民参加型基礎教育改善プロジェクト実施校
Selam Children's Village	Yeka, Addis Ababa	NGO 運営校 (初等中等教育機関)	完全校・生徒数 1200 人
Abebe Kerensa	Ambo, West Shewa, Oromia	スピードスクール	生徒数 90 人 (30 人×3 クラス)
Gunter	Ambo, West Shewa, Oromia	スピードスクール	生徒数 60 人 (30 人×2 クラス)
Mana Barumsaa	Ambo, West Shewa, Oromia	スピードスクール	生徒数 40 人 (40 人×1 クラス)
Oddo Barry	Ambo, West Shewa, Oromia	スピードスクール	生徒数 60 人 (30 人×2 クラス)
Abiyot Fana	Nefas Silk Lafto, Addis Ababa	夜間学校 (初等教育)	昼間学校と併設 生徒数 575 人
Fitaurari Habite	Kolfe Kerqnio, Addis Ababa	夜間学校 (初等教育)	昼間学校と併設 生徒数 476 人
Mahel Ginfile	Arada, Addis Ababa	夜間学校 (カレッジ)	昼間学校と併設 生徒数 600 人



図 2-1. 調査地地図

(出典 : UN Emergencies Unit for Ethiopia. <http://www.africa.upenn.edu/eue_web/eue_mnu.htm>)

2-5. 一次調査の結果

2-5-1. 初等教育機関復学者

エチオピアの教育制度では初等教育の復学に関して年齢や期間による制限は設けられておらず、本人と保護者の同意があれば復学の手続きを取ることができる。しかし、一次調査で訪問した初等教育機関のうち復学者に関するデータを保有していた学校¹⁹における復学者の人数は、アディスアベバでは在校生 1000 人規模の学校においても 10 人未満、オロミア州でも 30 人未満にとどまっており、中退後復学することの難しさがうかがえた。

¹⁹ 訪問した公立初等教育機関 15 校のうち 10 校から復学者の数について回答を得た。

復学者のデータを保有していた公立初等教育機関校 10 校において、なるべく性別および復学した学年に偏りが出ないように注意しながら、教員にインタビュー対象者を 1~3 名紹介してもらった。対象者は男子 11 名、女子 9 名の計 20 名であり、復学した学年は第 2 学年 2 名、第 3 学年 1 名、第 4 学年 5 名、第 5 学年 2 名、第 6 学年 5 名、第 8 学年 5 名である。第 1 学年と第 7 学年に復学した者のデータが収集できていないが、概ね偏りがなく復学者の現状を反映したデータであると考えられる。

半構造化インタビューでは、中退および復学の理由として、7 名 (35%) が病気で一度中退したが回復したため復学したと答えているほか、6 名 (30%) が他地域からの移住を理由に中退した後移住先での生活基盤が確立されてから復学したと答えている。復学者の中退および復学の経緯には、上記のように休学や期間をあけた転校とも捉えられる理由が多く見られた。その他の復学者は、保護者との死別や経済的困難を理由に中退を経験しているものの、家族や親族の経済的および精神的支援を得て再び就学することができたと答えた。復学者に共通していたのは家族または親族の支援を受けて復学に至っていた点であり、20 名中 18 名 (90%) が家族または親族の支援を復学の動機として挙げている。支援のあり方は中退理由によって異なるが、病気の看病、転居後の入学の検討²⁰および入学手続き、保護者と死別後の親族による生活環境の提供、親族による金銭支援などである。

2-5-2. 非復学者

非復学者の現状を把握するため、街で靴磨きをしている少年やエチオピアでよく見られる小さなコーヒーショップの店員をしている少女など、男子 6 名、女子 5 名の計 11 名に協力を得て半構造化インタビューを実施した。無作為に協力を依頼した対象者は 10~24 歳であったが、全員一度は就学歴があり、初等教育低学年で中退した者が 4 名、高学年で中退したものが 7 名であった。また、全員が首都アディスアベバ以外の地方部出身であり、地方部の初等教育機関を中退後、アディスアベバに移住したということであった。

インタビューでは、中退の理由として 11 名中 10 名が経済的困難を挙げた。家計の現金収入を得るため集団で地方から首都アディスアベバに出稼ぎに来て集団生活を送っている靴磨きグループの少年や、アラブ諸国にハウスメイドとして出稼ぎに行っていた少女、地方部に住む家族の経済状況悪化により住み込みのハウスメイドとして首都アディスアベバに身売りされてきた少女など、中退後の活動や生活状況は様々であったが、共通しているのは家族や親族による就学支援を得られずにいた点である。具体的には、就学に必要な制服や学用品の費用を負担してもらえない、就学よりも家事や家業の手伝いを優先させられる、つまり機会費用を認めてもらえない等である。本人の就学意志については 11 名中 10 名がもう

²⁰ エチオピアには日本のような学区制度がないため、児童および保護者が通学可能な範囲で入学を希望する学校を選択し、入学手続きを行う。

一度学校に通いたいと答えたものの、うち 4 名は中退後の学習機会についての情報を全く持っていなかった。中には筆者やアムハラ語通訳を担当する現地スタッフに復学できる教育機関がないか尋ねてくる者もあり、中退経験者が中退後も教育機会を求めている状況が確認された。

2-5-3. 代替教育機関

先述した Integrated Functional Adult Education (IFAE) と Alternative Basic Education (ABE) の他に、代替教育機関として、NGO 運営校、スピードスクール、夜間学校があることが一次調査によって確認された。

1 つ目の NGO 運営校は、エチオピアの現地 NGO *selam* が運営する初等および前期中等教育機関で、私立校と同等レベルの質の高い教育を実施し、富裕層の就学者から月 400 ブル程度²¹の学費を徴収する一方、孤児を対象に無償で教育機会と寮生活を提供している。学校長によると、在生徒 1200 人の 197 名が孤児であり (16.4%)、うち就学途中で孤児となった子どもが中退後に入学してくる事例もあるが、主な対象は就学経験のない孤児であるという。

2 つ目のスピードスクールは、アメリカのコンサルタント会社 Geneva Global がイギリスの教育慈善団体であるレガタム研究所の資本により運営する代替教育プログラムであり、2011 年に設立された。9~14 歳の公立校中退者を主な対象とし、10 ヶ月間で初等教育 1~3 年次分の内容を履修させ、正規教育の 4 年生に編入させるプログラムで、南部諸民族州、ティグライ州、オロミア州に計 800 クラスが開講されている。年齢を超過して就学した生徒は中退する確率が高いとのデータから、短期間に多くの内容を集中的に履修させ、年齢差を最小限に抑えた上で正規教育に就学させることを目的としている (Mengistie ほか, 2017)。1 クラスの生徒数を 30 人程度に抑え、6 人程度のグループでテーマ学習やグループ発表を実施するなど、相互性のある授業展開やタブレットと学習アプリを活用した学習など、先進的な授業実践も行われている。図 2-2 に示すのは、スピードスクールの授業の様子である。左はグループ発表を行っている場面、右はタブレットを用いた授業を行なっている場面である。

3 つ目の夜間学校は、初等教育未修了の 15 歳以上を対象とし、公立校の校舎で夕方以降から開始される。図工、音楽、体育を除いて初等教育と同等の内容を同様の期間で履修し、正規教育との同等生も保障されているため、修了すれば中等教育進学資格を得ることができる。学校ごとに定められた安価な授業料²²を徴収し、昼間の通常クラスを担当する教員の一部が夜間も継続して授業を行い、運営している。地方部では電気供給が不十分であり夜間の学習環境を確保できないことから、首都アディスアベバを中心と

²¹ 初等教育ファーストサイクルの学費は月 400 ブル、セカンドサイクルの学費は 480 ブルである。

1 ブルは 3.38 円 (2020 年 1 月現在)

²² 平均して月 45 ブル程度。

する都市部でのみ開校している。夜間学校生徒を対象としたインタビュー調査では、経済的な理由から地方の初等教育機関を中退した後に首都アディスアベバに移住し、日中は就労して夜は夜間学校に通う者が多いという実態が明らかになった。図2-3に示すように、視察した際には様々な年齢の生徒が熱心に学ぶ姿が見られたが、夜間学校の出席率は50%程度、8年次の初等教育修了試験の合格率は10~20%程度と、生徒の出席状況や修了試験合格状況に課題があることも明らかになった。



図2-2 スピードスクールの様子 (2019/2/26 筆写撮影)



図2-3 夜間学校の様子 (2019/2/25, 27 筆写撮影)

2-6. 一次調査まとめ

インタビュー調査から、復学者の中退理由と非復学者の中退理由には異なる傾向が見られた。図2-4は復学者の中退理由、図2-5は非復学者の中退理由をそれぞれグラフに示したものである。復学者は病気や

国内移住など一時的な理由で中退した者が6割を超え、経済的な問題を理由に中退した者は3割にとどまっている。一方で、非復学者は経済的困難を理由に中退した者が9割を超えている。また、復学者の9割が復学にあたり家族または親族の支援を得られたと答えているのに対し、非復学者からは家族または親族が就学継続や復学を支援してくれたとの答えは得られなかった。さらに、非復学者の9割が再度教育機会を得ることを希望しているにもかかわらず復学を果たせていない状況から、家族や親族の支援を得ずに復学することが困難である状況がうかがえる。中退者が家族や親族からの支援を期待できない場合にも就学希望を実現できるよう、正規教育への復学以外の手段、つまり何らかの代替教育機会が必要であることが改めて確認された。

文献調査および一次調査からエチオピアで実施が確認された代替教育の特徴を表2-3にまとめた。実施が明らかになったもののうち、Alternative Basic Education (ABE)とNGO運営校、スピードスクールは、地域または年齢によって対象者が限定されており、プログラムの性質上、希望者が誰でも教育機会を得ることはできない。教育省が成人教育機会として実施しているIntegrated Functional Adult Education (IFAE)は15歳以上であれば参加を制限することはないが、識字に焦点化したプログラムであり正規教育との同等生は認められていないため、修了後に中等および高等教育進学を希望する者や初等教育修了資格が必要な職業に就職を希望する者のニーズを満たすことはできない。

以上から、中退経験者が年齢の上限なく自身の意思で就学ことができ、かつ正規教育修了と同等の資格が得られる代替教育機会、夜間学校のみであるといえる。また、非復学者は地方から出稼ぎを目的に首都に移住し昼間は仕事をしている者が多いため、就業との両立を前提とした夜間学校の意義は大きいと考えられる。

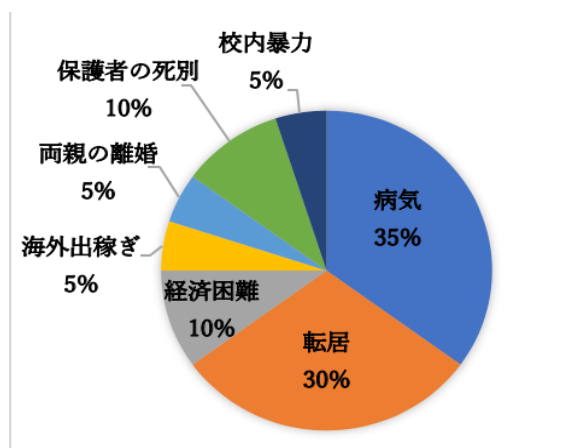


図2-4 復学者の中退理由

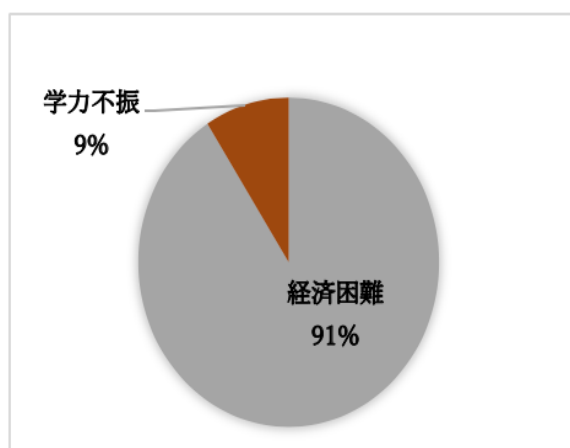


図2-5 非復学者の中退理由

表 2-3 エチオピアで実施されている代替教育

代替教育種類	対象者	年齢	カリキュラム	時間	同等性	実施主体	備考
IFAE	成人非識字者	15-	識字・計算・ 生活知識	-	×	政府	
夜間学校	初等教育 未修了者	15-	初等教育と同様	17:00-	○	政府	首都を中心に 開校
ABE	僻地の初等教育 G1~4 未修了者	7-14	初等教育と同様	昼間	○	UNICEF	
スピードスク ール	初等教育 G1~3 未修了者	9-14	初等教育と同様	昼間	○	コンサル	G1-3 の内容を 1年間で履修
NGO 運営校	孤児など 就学困難な者	-	初等教育と同様	昼間	○	NGO	

3章 夜間学校における出席状況に影響する要因に関する二次調査の概要

本章では、まず一次調査の結果を受けて問題の所在を明示し、関連する既存研究の整理を行う。続いて、二次調査の目的および調査方法、調査対象校の概要について述べる。

3-1. 問題の所在

一次調査の結果から、対象年齢、授業実施時間、正規教育との同等性の観点において、夜間学校が最も中退者のニーズに合致する代替教育機会であると考えられた。一方、夜間学校の視察では、50%程度の低い出席率や10~20%程度の低い初等教育修了試験合格率をはじめとする課題も明らかとなり、現時点では中退者の教育機会として有効に機能しているとは言い難い状況にあることがわかった。

3-2. 既存研究の整理

初等教育における中退要因に関する研究では、学校要因よりも家庭要因が中退および欠席に強く影響しているとするものもあるが（谷口, 2017 など）、対象年齢が高く有業者も多い夜間学校生徒を対象とした場合、通常の初等教育機関の生徒に比べ自己決定権の幅が広く状況が異なると推測できる。また、成人教育における欠席要因については、Pankhurst (2015)や齋藤 (2005) が就業との両立が困難であるためと説明している。しかし、Pankhurst (2015)の研究はエチオピアの夜間カレッジの学生数名、齋藤 (2005)の研究はバングラデシュの成人識字プログラムの参加者数名を対象としたインタビューの結果であり、どちらもサンプル数が少なく全体像を把握するには不十分である。加えて、成人教育において学校や教員の要因を含む就業以外の要因がどれくらい欠席に影響しているのかについての研究は見られない。

一方、他国の代替教育の成功事例として知られる、インドの全体識字キャンペーン (Total Literacy Campaign) やインドネシアのケジャール・パケット学習プログラム (Learning Kejar Packet Programme) では、教育提供側の工夫や制度設計による成功要因が報告されている。インドの全体識字キャンペーンは、1980年代から現在まで実施される15~35歳の非識字者を対象とした全国規模の識字キャンペーンで、6~8ヶ月間に200時間の識字学習を行うプログラムである。様々なノンフォーマル教育が実施されているインドにおいても成功事例として知られる同プログラムの成功の要因としては、学習効果を自己評価できるワークブックの活用やマスメディアを通じた学習者のモチベーション向上策が挙げられる (JICA, 2005a, National Literacy Mission)。インドネシアのケジャール・パケット学習プログラムは、初等教育にあたる Packet A、中等教育にあたる Packet B、高等教育にあたる Packet C からなり、正規教育との同等性が保証されたプログラムである。Packet A は1977年から実施されており、成人非識字者と初

等教育中退者を対象としているが、修了試験合格率が高くプログラム開始 20 年で実施された 1997 年度の調査では修了試験合格率は 89%にのぼっている (Napitupulu, 1997)。同プログラムの成功要因としては、基礎教育と生活知識を組み合わせた総合的学習、学習者の生活リズムに配慮した柔軟なカリキュラム、正規教育との同等性保障が挙げられる (JICA, 2005a)。上記のような成功事例とその成功要因から、対象年齢が高く有業者が多い教育機会においても、学習者の参加状況や学習達成に影響を与える要因は就業との両立以外にも様々に存在することが予測される。つまり、教育提供側の制度設計や学習内容の選択、教育実践上の工夫も、学習者の参加状況や学習達成に影響を与えていると考えられる。

3-3. 二次調査の目的

そこで二次調査では、夜間学校において課題となっている低い出席率と修了試験合格率に影響を与える要因を就業状況以外から明らかにすることを目的とする。

夜間学校を含む成人教育における欠席理由を就業との両立困難のみから説明している状況では、欠席は学習者本人の問題に矮小化され、教育提供側の制度改善や授業実践上の工夫に繋がらない。より有効に機能する教育のあり方を検討していくためには、学習者個人の努力に依存するのではなく、教育行政や教育機関も一丸となり改善を模索していく必要がある。夜間学校における低い出席率および修了試験合格率に影響を与える要因を就業状況以外から明らかにすることで、より良い代替教育のあり方をより広い範囲から検討していく一助になると考える。

3-4. 二次調査の方法

3-4-1. 調査対象校の概要

二次調査の調査対象校とした Fitaurari Habite 校の概要を記す。同校は、一次調査において訪問した初等教育未修了者を対象とする夜間学校 2 校のうちの一つである。二次調査の対象としたのは同校 1 校であるが、一次調査からは両校とも学校規模や生徒の男女比および年齢層、学費等が類似していることが確認されており、サンプル数は少ないもののアディスアベバの夜間学校としての代表性を有しているものと考えられる。

図 3-1 の右側がエチオピア全体の地図、左側が首都アディスアベバの地図である。アディスアベバの地図内、Kolfe-Keranio 地区の北側に示した赤いマークが調査対象校のある地点である。アディスアベバは周囲をオロミア州に囲まれた 527km²の自治区であるが、Fitaurari Habite 校はその北西の端、オロミア州との境に位置している。

二次調査の対象とするのは Fitaurari Habite 校の夜間学校であるが、同校は昼間も公立初等教育機関として機能している。昼間学校としては初等教育 1~8 年を履修することができる完全校であり、全校生徒数 3535 人、教員数 121 人、学級数 53 クラスの大規模校である²³。夜間学校の生徒数は 476 人、教員数 24 人、学級数 8 クラスである²⁴。

同夜間学校は平日の 17:30~20:10 に開講され、40 分授業 4 コマを休憩時間なしで実施する。図工・音楽・体育を除き初等教育の昼間学校と同様の内容を同様に 8 年間かけて履修する。ただし初等教育中退者など以前に就学経験がある者は第 1 学年以外の途中学年から入学することも可能である。授業料は、第 1~2 学年で月 45 ブル、第 3~4 学年で月 57 ブル、第 5~6 学年で 75 ブル、第 7~8 学年で 90 ブルであり、入学の際は入学金として 150 ブルが必要である。

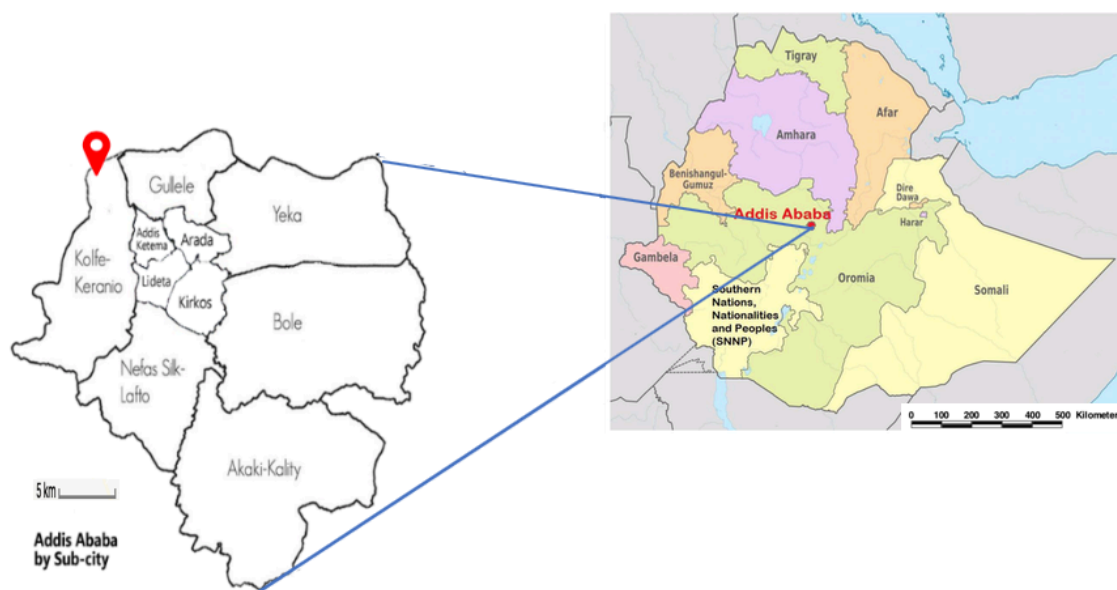


図 3-1 調査地地図

(出典：Addis Ababa City Government. 〈<http://www.addisababa.gov.et/de/web/guest/city-map>〉)

²³ 一次調査で収集した 2019 年 2 月時点の学校保有データより。

²⁴ 二次調査で収集した 2019 年 10 月時点の学校保有データより。

3-4-2. 調査方法

調査方法は、学校保有データの収集と夜間学校生徒を対象とした質問紙調査である。学校保有データからは、各学年の男女別在籍者数と初等教育修了試験合格者数のデータを収集した。これらのデータは学校施設内の書庫に年度ごとにファイリングされ紙媒体で保存されていたため、当該データのファイルを探して閲覧した。

質問紙調査は第1学年生徒9名、第4学年生徒52名、第8学年生徒84名の計145名を対象に実施した。質問紙は英語とエチオピアの公用語であるアムハラ語を併記し、数字で回答する場合とその他を選択して回答を追記する場合を除いて、全問選択式とした。学年別のアムハラ語による読み書きの能力を考慮し、第1学年では、教員が質問紙の内容に沿ってアムハラ語で生徒に個別インタビューし、生徒の回答を質問紙に代筆する方式を採用した。第4学年では、クラスの出席者全員に質問紙を配布した上で、教壇で教員が質問番号と質問内容および必要な場合には回答方法を1問ずつ読み上げ、教員の指示に従って生徒が自筆で回答する方式とした。第8学年では、クラスの出席者全員に質問紙を配布し各自で質問を読み進めながら自筆で回答してもらった。

質問紙の質問内容は以下の表5-1の通りである。実際に利用した質問紙を付録1に示す。

表5-1 質問紙調査の内容

番号	内容	回答方法
1	年齢	記述
2	性別	男性・女性・その他の3件法
3	婚姻状況	既婚・未婚・離婚の3件法
4	在籍学年	1~8の8件法
5	入学年	記述
6	留年有無	あり・なしの2件法
7	居住地域	周辺地域8箇所とその他で9件法
8	同居者	親・兄弟・親戚・友人・その他の5件法
9	出身地	エチオピアの行政区11地域とその他の国の12件法
10	使用可能言語	地域言語10言語と英語・その他の12件法を複数選択可
11	アムハラ語学習歴	1年以内・1~2年・3~4年・5年以上の4件法
12	アムハラ語レベル	母語・上級・中級・初級の4件法
13	英語学習歴	1年以内・1~2年・3~4年・5年以上の4件法
14	英語レベル	母語・上級・中級・初級の4件法

15	就学歴	あり・なしの2件法
15-1	中退学年	就学歴ありの場合、1~8の8件法で回答
15-2	中退理由	就学歴ありの場合、資金不足・就労・移住・海外出稼ぎ・親の勧め・興味不足・学校が好きではない・その他の8件法
16	就労状況	就労・非就労の2件法
16-1	職業	就労中の場合、ベビーシッター・大工・レジ係・事務・運転手・エンジニア・農業・メイド・警備・仕立て屋・教師・その他の12件法
16-2	就業時間	記述
17	職歴	現在の職業以外に就業経験がある場合、16-1と同様の選択肢から選択
18	家族構成	父・母・兄・弟・姉・妹から当てはまるものを選択の上、兄弟姉妹には人数を記入
19	家族学歴	該当家族に最終修了学年を記入
20	夜間学校の情報	家族から・友人から・学校から・行政から・その他の5件法
21	入学決定者	自身・家族・雇用主・その他の4件法
22	入学動機	修了証取得・学習内容・アムハラ語習得・英語習得・計算習得・中等教育就学・より良い仕事への転職・その他で複数選択可
23-1	アムハラ語出席状況	全て出席・だいたい出席・ほとんど欠席・全て欠席の4件法
23-2	アムハラ語理解度	よく理解している・理解している・少し理解している・全く理解していないの4件法
23-3	アムハラ語満足度	大変満足・概ね満足・概ね不満足・大変不満足 of 4件法
23-4	アムハラ語改善点	簡単にする・難しくする・教科書を増やす・宿題を出す・発言機会を増やす・板書を減らす・その他で複数選択可
24-1	英語出席状況	全て出席・だいたい出席・ほとんど欠席・全て欠席の4件法
24-2	英語理解度	よく理解している・理解している・少し理解している・全く理解していないの4件法
24-3	英語満足度	大変満足・概ね満足・概ね不満足・大変不満足 of 4件法
24-4	英語改善点	簡単にする・難しくする・教科書を増やす・宿題を出す・発言機会を増やす・板書を減らす・その他で複数選択可
25-1	算数出席状況	全て出席・だいたい出席・ほとんど欠席・全て欠席の4件法
25-2	算数理解度	よく理解している・理解している・少し理解している・全く理解していないの4件法
25-3	算数満足度	大変満足・概ね満足・概ね不満足・大変不満足 of 4件法

25-4	算数改善点	簡単にする・難しくする・教科書を増やす・宿題を出す・他民族語の教科書を配布する・他民族語を教授言語にする・発言機会を増やす・板書を減らす・その他で複数選択可
26-1	理科出席状況	全て出席・だいたい出席・ほとんど欠席・全て欠席の4件法
26-2	理科理解度	よく理解している・理解している・少し理解している・全く理解していないの4件法
26-3	理科満足度	大変満足・概ね満足・概ね不満足・大変不満足 of 4件法
26-4	理科改善点	簡単にする・難しくする・教科書を増やす・宿題を出す・他民族語の教科書を配布する・他民族語を教授言語にする・発言機会を増やす・板書を減らす・その他で複数選択可
27-1	社会出席状況	全て出席・だいたい出席・ほとんど欠席・全て欠席の4件法
27-2	社会理解度	よく理解している・理解している・少し理解している・全く理解していないの4件法
27-3	社会満足度	大変満足・概ね満足・概ね不満足・大変不満足 of 4件法
28-1	学校施設の満足度	大変満足・概ね満足・概ね不満足・大変不満足 of 4件法
28-2	学校施設改善点	教室・机と椅子・トイレ・校庭・その他の5件法
29	授業時間の妥当性	適切・遅すぎる・早すぎる・その他の4件法
30	就学期間の妥当性	適切・長すぎる・短すぎる・その他の4件法
31	カリキュラムの妥当性	強く賛成・賛成・反対・強く反対 of 4件法
32	教員への質問頻度	いつもする・ときどきする・ほとんどしない・全くしない of 4件法
33	教員の質問への回答態度	大変良い・良い・だいたい良い・良くない of 4件法
34	教員のケア度合い	大変良い・良い・だいたい良い・良くない of 4件法
35	教員の生徒への個人認識	いつもする・ときどきする・ほとんどしない・全くしない of 4件法
36-1	教員との会話頻度	いつもする・ときどきする・ほとんどしない・全くしない of 4件法
36-2	教員との会話内容	学習内容・勉強方法・学校生活・個人的内容・その他の5件法
37	相談相手の有無	あり・なし of 2件法。ありの場合、親・兄弟・親戚・学校友人・その他友人・教員・その他から複数選択可
38	孤独を感じる頻度	いつも感じる・ときどき感じる・ほとんど感じない・全く感じない of 4件法
39	将来不安を感じる頻度	いつも感じる・ときどき感じる・ほとんど感じない・全く感じない of 4件法
40	困難に立ち向かう頻度	いつもする・ときどきする・ほとんどしない・全くしない of 4件法
41	学校内友人の数	記述
42	学校友人との交友頻度	いつもする・ときどきする・ほとんどしない・全くしない of 4件法

3-4-3. 分析方法

質問紙調査の、単純集計およびクロス集計を主な分析方法とした。出席状況に影響を与える要因の分析においては、相関分析を用いて各要因との相関関係の有無および強さを明らかにした。職業別の出席状況や使用可能言語別の教科理解度などの分析においては、箱ひげ図²⁵を用いてデータ分布の分析を行った。

²⁵ 箱ひげ図は、ひげの上端が最大値、ひげの下端が最小値、箱の上部が第三四分位線（75%）箱の下部が第一四分位線（25%）となるように分布を示した図である。箱内のバツ印は平均を示している。

4章 調査結果と分析

4-1. 夜間学校生徒の基礎データと初等教育修了試験合格率

2019年10月現在の Fitaurari Habite 夜間学校の在籍人生徒数は476人である。表4-1は学年別男女別の人数についてまとめたものであるが、全ての学年で女子生徒数が男子生徒数を上回り、全体では74%を女子生徒が占めている。学校の保有データには生徒個人を特定する出欠席記録や進級および中退の記録がないため夜間学校生徒の進級率や中退率を経年的に分析することはできないが、他の年度においても2019年度同様に開始学年である第1学年と最終学年である第8学年の生徒数が他の学年に比べて高い傾向が見られた。最終学年の在籍者数が増える理由は、最終学年の学年末に受験する初等教育修了試験の不合格者が留年し次年度の再受験を目指すためである。

表4-1 学年別男女別在籍生徒数 (2019)

	F	M	T
G1	66	22	88
G2	35	15	50
G3	24	15	39
G4	43	10	53
G5	38	8	46
G6	44	12	56
G7	46	10	56
G8	58	30	88
合計	354	122	476

表4-2に示したのが近年4年間の修了試験合格率である。第8学年の生徒は毎年2~3名の欠席者はいるもののほとんどが修了試験を受験している。しかし、合格率は高い年でも23%にとどまり10%未満の合格率の年もあるほどである。初等教育修了試験は州ごとに実施され、中等教育機関の受け入れ可能人数によって多少の合格基準の調整が行われるが、概ね50%程度の正解率で合格となる試験であり (UNESCO, 2010)、昼間学校の初等教育修了試験合格率は全国平均で61.7% (MoE, 2002b)であること

からも、夜間学校生徒の合格率が際立って低いことがわかる。さらに、初等教育修了試験合格率を男女別に見ると、4年間全てで男子が女子を上回り、違いが大きい年度では7倍もの差になっていることがわかる。

表 4-2 初等教育修了試験合格率

	G8 生徒数			修了試験合格者数			修了試験合格率		
	F	M	T	F	M	T	F	M	T
2018	66	27	93	9	12	21	14%	44%	23%
2017	63	42	105	1	6	7	2%	14%	7%
2016	51	35	86	2	4	6	4%	11%	7%
2015	30	23	53	5	5	10	17%	22%	19%

図 4-1 は質問紙調査の対象とした夜間学校生徒²⁶の年齢の分布を表したグラフである。夜間学校生徒の年齢は原則 15 歳以上とされているが、15 歳未満であっても昼間に就学できない事由がある入学希望者については例外的に受け入れており、質問紙調査の対象とした 145 名の中にも 7 名 (5%) 15 歳未満の生徒が在籍していた。全体では 10 代の生徒が最も多く半数を占める。次に多い 20 代と合わせると全体の 9 割にのぼり、30 代の生徒は 7%、40 代の生徒は 2%と少数である。

初等教育就学歴に関しては、88%もの生徒が一度は初等教育に就学し、その後中退していることが明らかになった。夜間学校生徒の初等教育中退理由²⁷は図 4-2 に示す通りである。経済的困難に分類できる、「資金不足」(19%)、「海外出稼ぎ」(17%)、「就労」(15%)を合計すると 51%となり約半数を占める。また、「親の勧め」(13%)が中退理由となっており、夜間学校が家族による就学支援を得られなかった場合の教育機会として機能していることが改めて確認できる。「親の勧め」を選択した生徒 12 名全員が現在は家族以外と同居もしくは単身で生活しているとの回答からも、親元を離れ自身で生活基盤を築いた後、夜間学校に就学している状況がうかがえる。

図 4-3 に示したのは、複数回答式で回答した夜間学校生徒の入学動機である。最も多いのは「学習内容の習得」(43%)で、「英語」(14%)「計算」(8%)「アムハラ語」(6%)などの技能や、「より良

²⁶ 質問紙調査は第 1 学年生徒 9 名、第 4 学年生徒 52 名、第 8 学年生徒 84 名の計 145 名を対象に実施した。

²⁷ 複数選択式で質問した結果である。

い仕事」(12%)「初等教育修了資格取得」(10%)「中等教育進学」(6%)といった将来設計をおさえ、抜きん出ている。

また、夜間学校に関する情報をどこから得たかについての回答を図4-4に示した。「友人」(36%)が最も多く、次いで「学校」(34%)、「家族」(15%)と続き、「政府機関」と答えたものは7%にとどまっている。一次調査での非復学者を対象としたインタビューにおいては、4割が中退後の学習機会について全く情報がないと答えていた。夜間学校に関する情報をどこから得たかについての夜間学校生徒の回答も、中退者に対する公的な情報発信の不足を裏付ける結果であるといえるだろう。

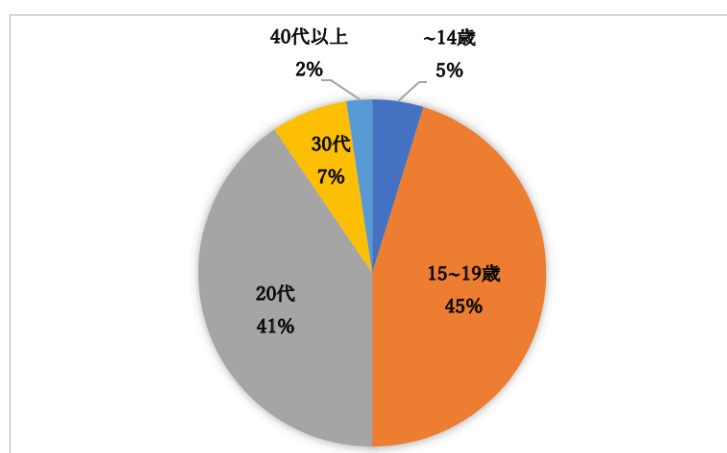


図4-1 夜間学校生徒の年齢分布

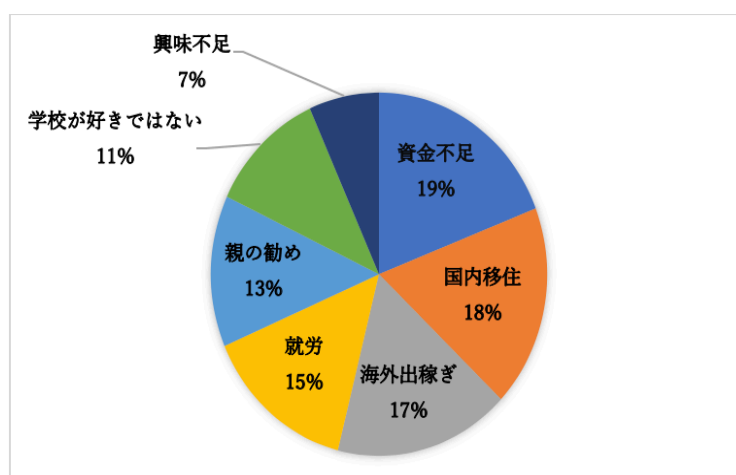


図4-2 夜間学校生徒の初等教育中退理由

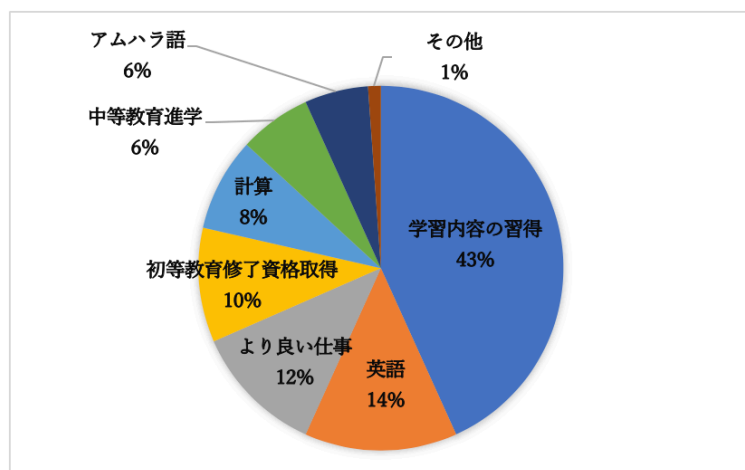


図 4-3 夜間学校生徒の入学動機

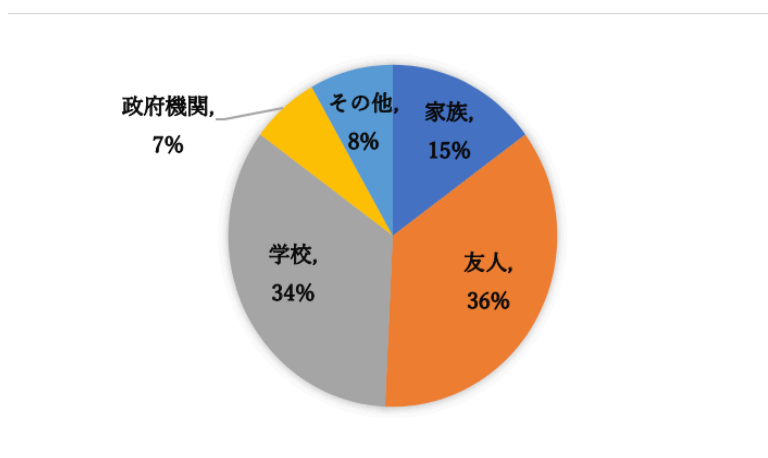


図 4-4 夜間学校に関する情報の入手先

4-2. 職業と出席状況の関係

前章の既存研究の整理で述べたように、成人教育における欠席の要因は就労との両立が困難であるためと説明されてきた (Pankhurst, 2015, 齋藤, 2005)。欠席理由が就労との両立困難であった場合、生徒の職業と出席状況には何らかの関係が見られる可能性が高い。そこで、まず、本研究の対象である夜間学校において生徒の職業と出席状況の関係を分析する。

質問紙調査の就業状態について回答があった127名のうち、111名が就業中であった(87.4%)。図4-5に示すのが、調査対象者の職業の分布である。図4-6では生徒の職業別の出席状況²⁸を箱ひげ図で示した。生徒の職業別の出席状況からは職業による多少の出席状況のばらつきは認められるものの、平均は概ね3以上を示しており、特定の職業を有する生徒が出席に困難をきたしている状況は確認できなかった。

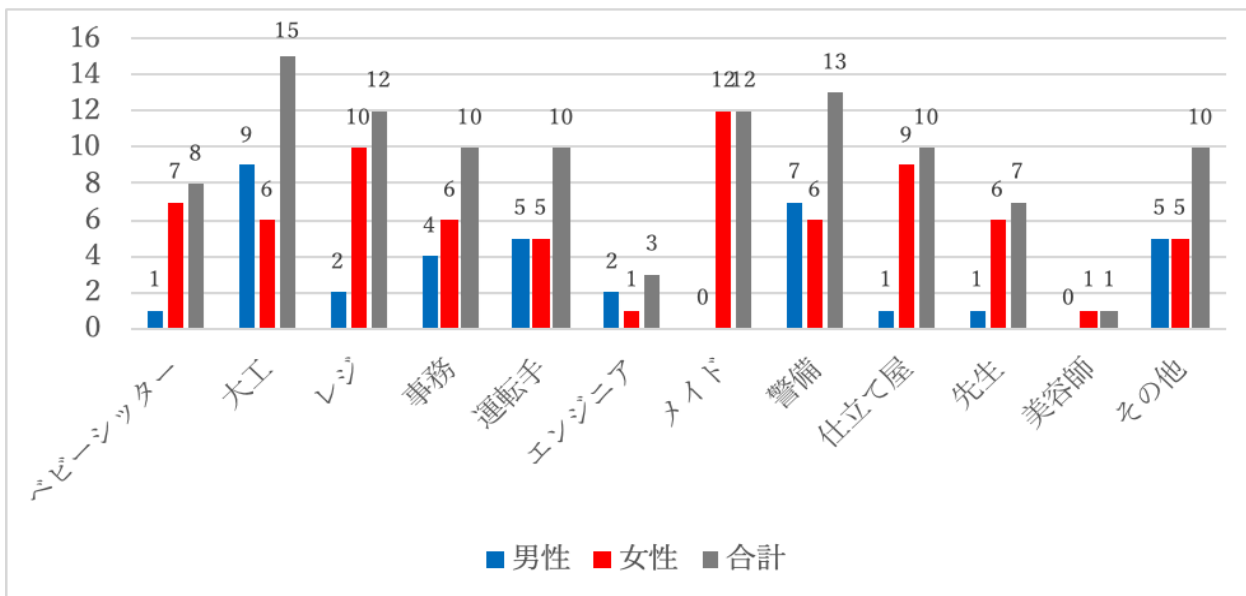


図4-5 夜間学校生徒の職業

²⁸ 出席状況は質問紙調査における生徒の回答に基づくもので、全て出席・だいたい出席・ほとんど欠席・全て欠席の4件法による自己申告である。アムハラ語・英語・算数・理科・社会の各教科について出席状況を質問しており、5教科(1年次生徒は社会がないため4教科)の平均を出席状況として用いている。学校側は出欠確認を実施していないため、自己申告によるデータを用いている。

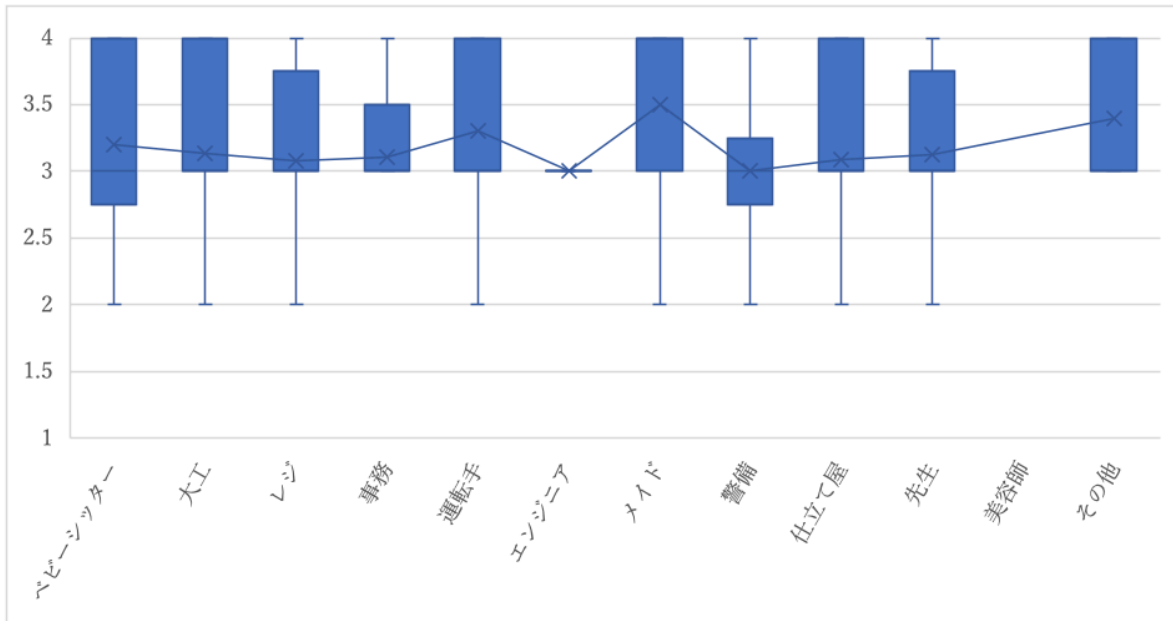


図 4-6 職業別の出席状況

4-3. 出席状況に関連している要因

次に、就業中の職業以外に出席状況に影響を与える要因を分析する。表 4-3 は出席状況と各要因との相関係数を示している。質問紙調査の結果より、教科理解度²⁹($r=0.560$)、教科満足度³⁰($r=0.431$)、施設満足度³¹ ($r=0.401$)、教員のケア度合い³² ($r=0.414$) の 4 つが出席状況と高い相関関係にあることが明らかになった。以下にこの 4 つの要因について分析していく。

²⁹ 質問紙調査では教科ごとの理解度を自己申告による 4 件法で尋ねており、教科理解度は回答のあった全ての教科の理解度を平均したものである。

³⁰ 質問紙調査では教科ごとの満足度を 4 件法で尋ねており、教科満足度は回答のあった全ての教科の満足度を平均したものである。

³¹ 学校施設の満足度を 4 件法で回答した結果である。

³² 「教員はあなたのことをどれくらい気にかけてくれますか。」という質問に対し大変良い・良い・だいたい良い・良くないの 4 件法で回答した結果。

表 4-3 出席状況との相関

	相関係数 ³³		相関係数
アムハラ語レベル	0.185 *	学校施設満足度	0.401 **
英語レベル	0.035	カリキュラムの妥当性	0.292 **
教科理解度	0.560 **	教員への質問頻度	0.243 **
教科満足度	0.431 **	教員の回答への満足度	0.365 **
アムハラ語理解度	0.393 **	教員のケア度合い	0.414 **
アムハラ語満足度	0.354 **	教員の生徒への個人認識	0.267 **
英語理解度	0.296 **	教員との会話頻度	0.285 **
英語満足度	0.243 **	孤独を感じる頻度	0.129
数学理解度	0.378 **	将来不安を感じる頻度	0.150
数学満足度	0.438 **	困難に立ち向かう頻度	0.065
理科理解度	0.478 **	学校友人との交友頻度	0.230 **
理科満足度	0.377 **		
社会理解度	0.372 **		
社会満足度	0.375 **		

4-4. 教科理解度と夜間学校生徒の言語状況

夜間学校生徒の出席状況と教科理解度には相関が見られた ($r=0.560$)。出席状況がより優良であれば教科の理解度が高まり、また教科の理解度が高ければ出席の動機となるため、出席状況と教科理解度が相互に影響していることは想像に難くない。では、夜間学校における教科理解度に影響を与え得る要因はなんだろうか。教科理解度に関連があると考えられる要素のひとつに夜間学校生徒の使用言語の状況が挙げられる。一次調査で夜間学校生徒を対象に行ったインタビューにおいても学習を困難にする要因として、労働による疲労や時間管理の難しさと並んで使用言語の多様さが言及された。

図 4-7 は夜間学校生徒の使用可能言語を複数回答式で質問した結果である。各言語の名称の横に回答数、下に割合を示した³⁴。夜間学校での教授言語は 1994 年に定められた教育訓練政策に則り初等教育機

³³ **は 1%、*は 5%の有意水準であることを表している。

³⁴ 回答数の合計は 193 であり、これを 100%として円グラフを作成しているが、複数選択式であるため回答者数は 145 名である。

関と同様に、ファーストサイクルにあたる第1学年から第4学年まではアムハラ語、セカンドサイクルにあたる第5学年から第8学年までは英語が用いられている。しかし、ファーストサイクルの教授言語でありエチオピアの公用語でもあるアムハラ語を使用可能言語として選択したのは、夜間学校生徒145名中67名(46.2%)にとどまっている。セカンドサイクルの教授言語である英語に至っては145名中8名(5.5%)とごく一部の生徒のみが使用可能言語として選択している。

夜間学校生徒の使用言語は最も多いアムハラ語、次いで僅差でオロモ語、ソマリ語と続くが、それ以外にも多くの言語が使用されており大変多様であることが改めて確認できる。エチオピアは国内に80もの民族が暮らす多民族国家である上、各民族が独自の言語を持つ多言語国家でもあることは教育制度の項でも述べた通りであるが、州ごとに公用語を定める政策からもわかるように使用言語は地域によって住み分けされている場合が多く、夜間学校の事例のように一箇所で多様な言語が入り乱れている状況は稀であるといえる。図4-8に示したのがエチオピア全国の言語状況、図4-9に示したのがアディスアベバの言語状況である³⁵。エチオピア全国では最大民族であるオロモ族の使用言語オロモ語が34%と最も多く、次いで公用語であるアムハラ語(29%)、ソマリ語(6%)と続く。アディスアベバにおいては、最も多いアムハラ語のみで71%を占め、次いで多いオロモ語(11%)と合わせると2言語で8割以上となる。これら2つのグラフと夜間学校生徒の使用可能言語のグラフ(図4-7)を比較すると、調査対象校の所在地はアディスアベバであるにもかかわらず、夜間学校の言語状況はアディスアベバの言語状況(図4-9)よりもエチオピア全国の言語状況(図4-8)に類似していることが見て取れる。図4-10に示したのが夜間学校生徒の出身地であるが、エチオピア全国から来た生徒が就学している状況が確認できる。夜間学校の生徒の多くが出稼ぎを目的に首都に移住した者で、アディスアベバ出身者は142名中18名(13%)にとどまることも明らかになっており、エチオピア全国から多民族、多言語使用者が集まる夜間学校の状況は、多言語国家エチオピアにおいても特殊な事例であるといえる。

³⁵ 2007年の国勢調査において、母語を単一選択式で質問した結果である。

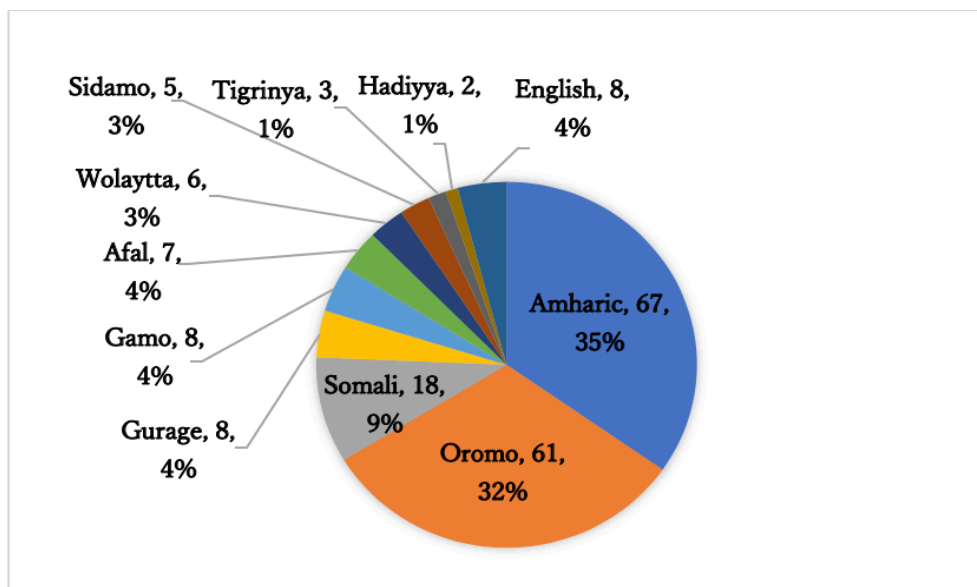


図 4-7 夜間学校生徒の使用可能言語

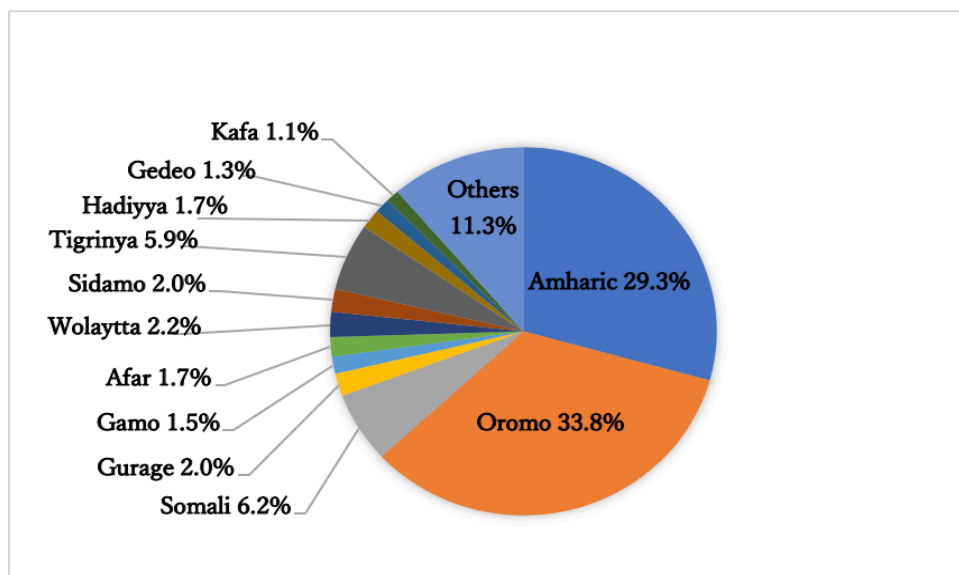


図 4-8 エチオピア全国の言語状況

(出典：Population Census Commission. (2007). National Census.より筆者作成)

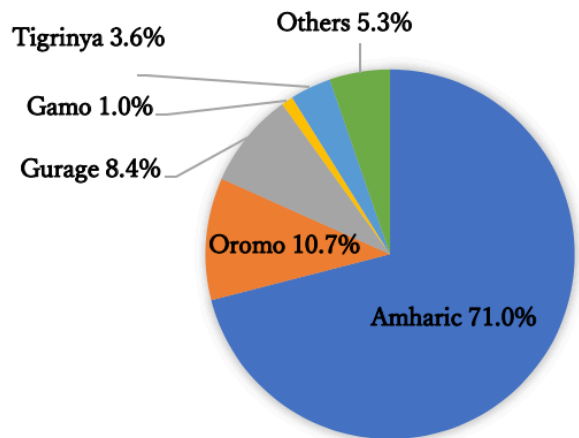


図 4-9 アデイスアベバ の言語状況

(出典：Population Census Commission. (2007). National Census. より筆者作成)

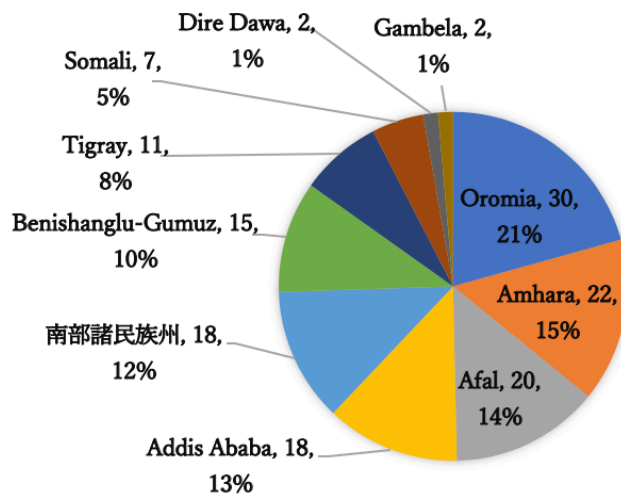


図 4-10 夜間学校生徒の出身地

さらに、用可能言語と教科理解度にも関係が見られた。図 4-11 は使用可能言語別の算数の理解度³⁶を箱ひげ図で示したものである。公用語でありファーストサイクルにあたる第 1 学年から第 4 学年までの教授言語でもあるアムハラ語、シダモ語およびウォライタ語を使用可能言語とする生徒の算数理解度が高い傾向にある。一方で、ソマリ語およびティグライ語を使用可能言語とする生徒は算数理解度が低い傾向にある。さらに、算数の理解度をファーストサイクルとセカンドサイクルに分けて表したのが図 4-12 および図 4-13 である³⁷。ファーストサイクル（図 4-12）では教授言語であるアムハラ語が他の言語に抜きん出て高い値を示しているものの、セカンドサイクル（図 4-13）で教授言語が英語になるとアムハラ語の優位は失われることがわかる。これらの結果から教授言語の習得レベルが教科の理解度に強い影響を与えている状況がうかがえる。

³⁶ 算数理解度は質問紙調査における生徒の回答に基づくもので、よく理解している・理解している・少し理解している・全く理解していないの 4 件法による自己申告である。

³⁷ 有効回答が得られた言語のみグラフに表しているため、各グラフで空欄となっている言語がある。

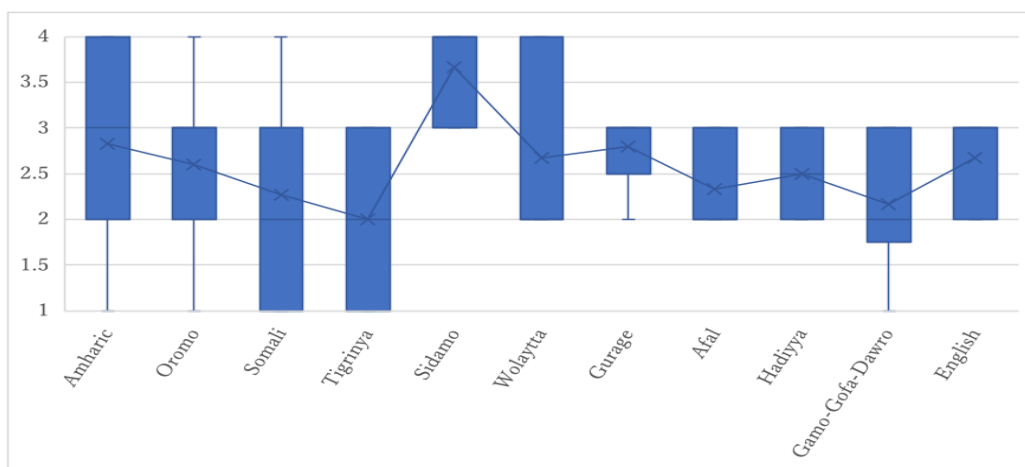


図4-11 使用可能言語別の算数理解度

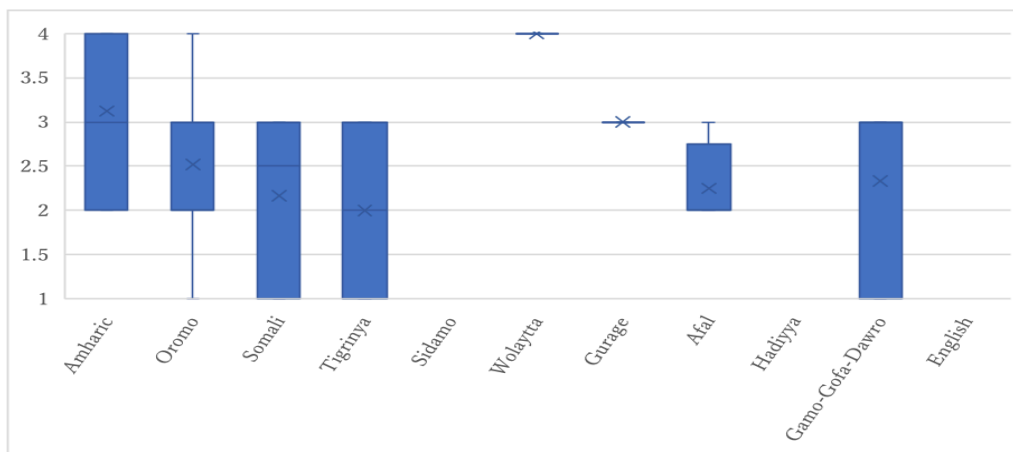


図4-12 使用可能言語別の算数理解度 (ファーストサイクル)

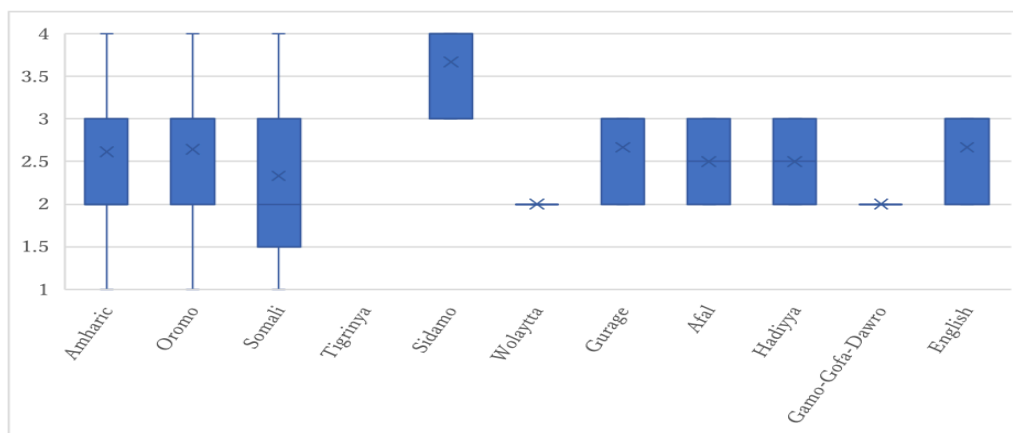


図4-13 使用可能言語別の算数理解度 (セカンドサイクル)

4-5. 教科満足度と授業改善点

出席状況と教科満足度には相関が見られ ($r=0.431$)、教科満足度が高いほど出席状況も良好であることが明らかになった。4 件法で質問した各教科の満足度を 1~4 点に点数化し各教科の満足度の平均を求めたところ³⁸、アムハラ語 2.88、英語 2.78、算数 2.89、理科 2.96、社会 2.83 となり教科ごとの満足度の差は小さく、全教科 2.7~3.0 の間に収まっていることがわかった。

質問紙では教科の満足度に加えて、教科ごとに改善を希望する点を最大 3 つまでの複数選択式で質問した。図 4-14 は各教科の改善希望点に関する回答をグラフに示したものである。まず教科の難易度について「簡単にする」と「難しくする」を比較すると、英語以外の 4 教科で「難しくする」が「簡単にする」を上回っている。生徒へのインタビューでは、「教科書の内容と比較して授業内容が易しいので、初等教育で習得すべき内容を全て学べるのか不安に感じる」との声も聞かれた。その他の改善希望点では「宿題を出す」が最も多く選択されており、英語以外の 4 教科では難易度に関するものを除いた選択肢の中で最多となっている。夜間学校は通常の昼間学校と比べて授業時間数が少ない中、図工・音楽・体育を除いた同様のカリキュラムを履修する。そのため生徒からも「授業時間が少ないので自宅でも勉強したい」「勉強法がわからないので宿題を出してほしい」といった意見が聞かれた。夜間学校生徒の学習意欲が感じられる結果であると同時に、勉強方法や家庭学習の支援が不足しているという課題も明らかになったといえる。難易度とその他の選択肢共に、英語のみ他の教科と異なる傾向を示しており、若干の差ではあるものの「難しくする」が「簡単にする」を上回り、「宿題を出す」以上に「発言機会を増やす」が選ばれている。夜間学校生徒にとって英語は教科の一つであるだけでなく、セカンドサイクルからは教授言語にもなるため、日常的に使用できるレベルまで実践的に習得したいとの考えが現れているのではないかと推測される。

³⁸ 大変満足・概ね満足・概ね不満足・大変不満足 の 4 件法による回答を 4~1 点に点数化し、各教科の平均値を求めた。

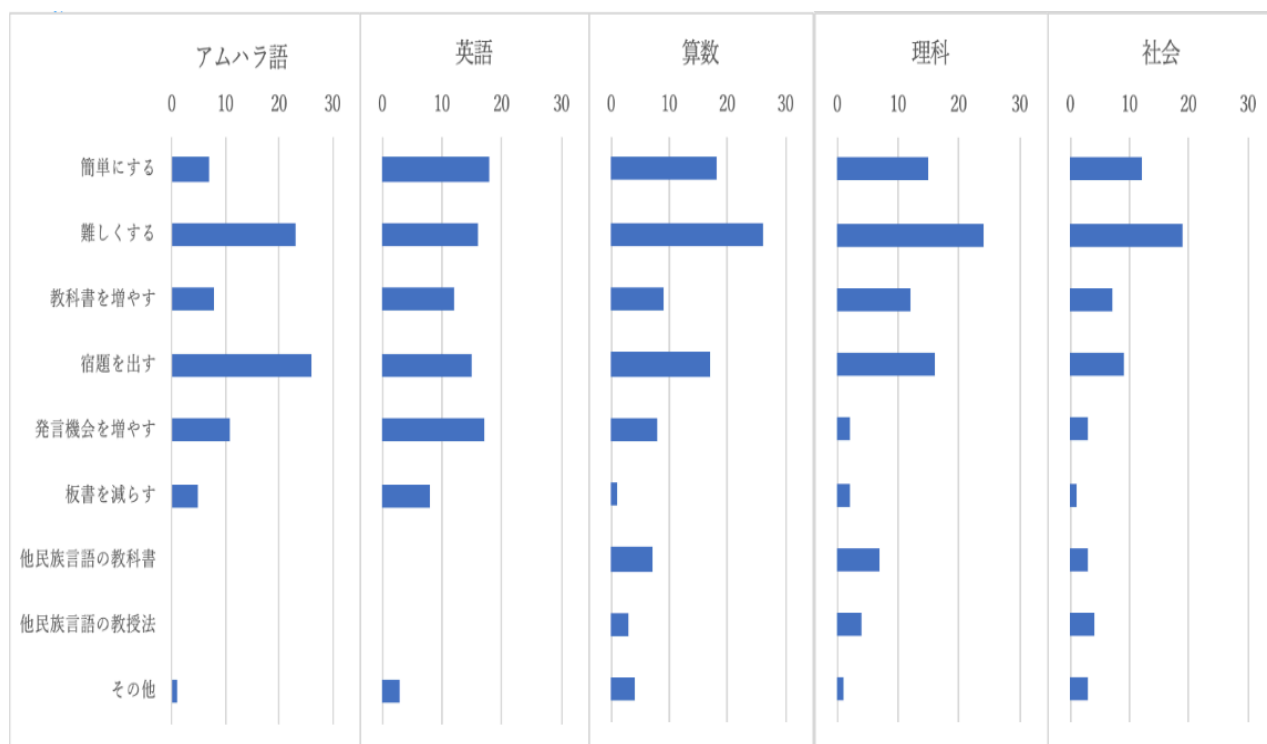


図 4-14 教科ごとの改善希望点

4-6. 学校施設満足度と改善点

出席状況と施設満足度にも相関が見られ ($r=0.401$)、学校施設に満足しているほど出席状況も良好であることが明らかになった。4 件法で質問した学校施設の満足度を 1~4 点に点数化し平均を求めたところ施設満足度の平均は 2.94 であった³⁹。4 件法による回答の分布を図 4-15 に示した。大変満足 (35%) とやや満足 (39%) を合わせると 74%を占めるものの、やや不満足 (11%) と大変不満足 (15%) の回答も合わせて 26%存在し、4 人に 1 人は学校施設に何らかの不満を抱いている状況が明らかになった。質問紙では施設満足度に加え、改善希望点を複数選択式で質問している。図 4-16 は学校施設の改善希望点に関する回答の結果をグラフに表したものである。トイレ (42 票) が最も多く、次いで机と椅子 (28 票)、教室 (16 票)、校庭 (13 票) と続く。学校施設の満足度と改善希望点の関係については、表 4-4 に示した通りである。

改善希望点として最も多く選択されたトイレの実際の写真を図 4-17 として掲載した。校舎裏手の少し離れた場所に汲み取り式のトイレ施設があるが (写真左)、電気がないため個室内部は昼間でも薄暗く夜

³⁹ 大変満足・概ね満足・概ね不満足・大変不満足 の 4 件法による回答を 4~1 点に点数化し、平均値を求めた。

はどこに便器部分があるのかも確認できない状況となる(写真右)。また、トイレにはトタン製のドアが付いているものの壊れかけておりブロックなどを工夫して置くことで閉めた状態を維持する必要がある。次いで、机と椅子、教室であるが、図4-18として掲載したのが夜間学校第1学年の授業風景である。夜間学校の教室は昼間の通常クラスの設備をそのまま利用しているため机は3人がけの長机であるが、15歳以上を対象とする夜間学校の生徒には狭く感じられる。その上、出席状況によっては4人で1つの机を利用する様子も見られる。最後に校庭の写真を図4-19として掲載した。夜間学校に体育はないため授業で校庭を利用することはないが、「外灯がないため夜間は暗くなり不便を感じる」との声があった。

さらに、施設の改善希望点を男女別に比較したものが図4-20および図4-21のグラフである。男子の方が選択割合が高い改善希望点として、机と椅子および校庭が挙げられる。机と椅子は女子21%に対し男子39%、校庭は女子10%に対し男子19%とどちらも2倍近い割合である。机については視察からも3人がけが窮屈であると確認されており、比較的大柄な男子の方がより窮屈に感じている結果であると推測される。一方、女子の方が選択割合が高い改善希望点は教室およびトイレである。特にトイレは男子でも28%と高い割合であるが、女子に至っては49%と女子が希望する施設改善点の約半数を占めている。トイレは校舎の裏手に位置しており、かつ電気がないこともあり、女子であれば夜間であると身の危険を感じることもあると予測される。

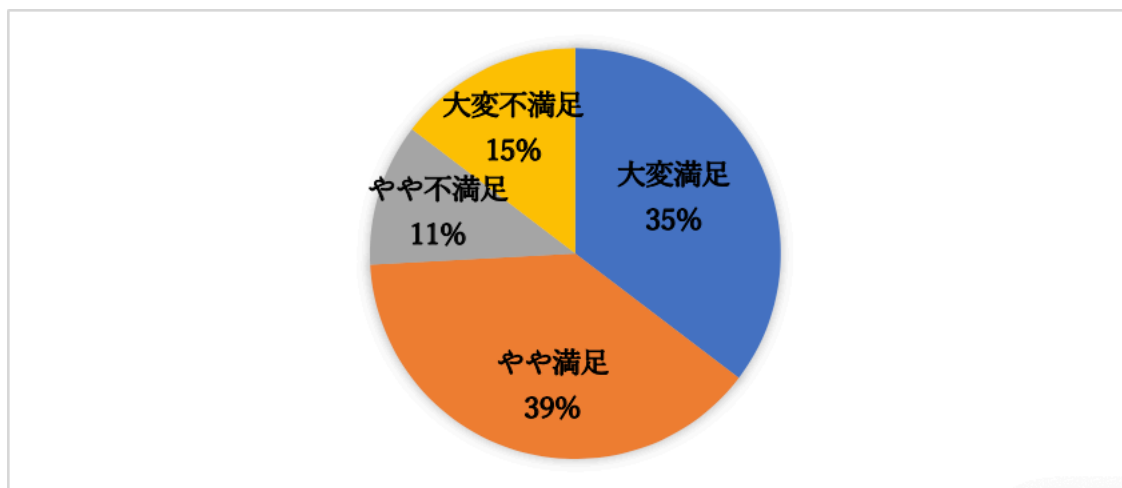


図4-15 学校施設満足度

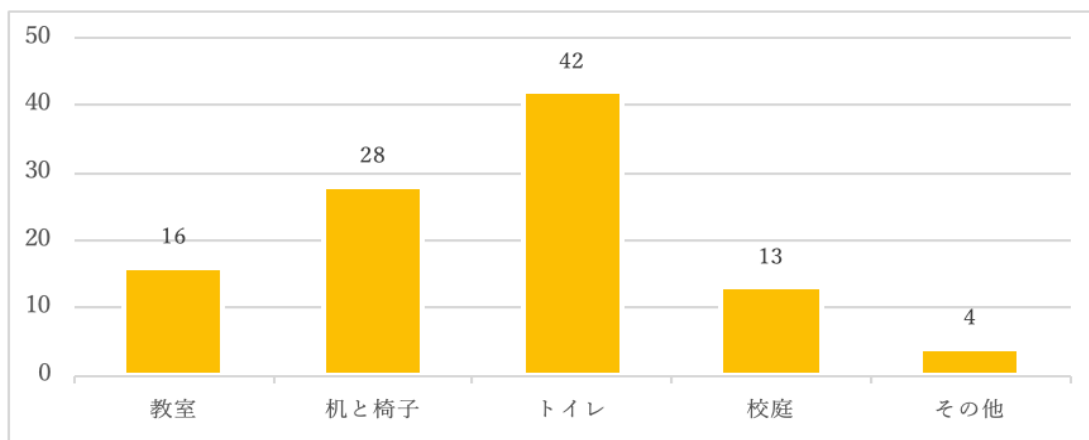


図4-16 学校施設改善点

表4-4 施設満足度と改善希望点の関係

	大変満足	やや満足	やや不満足	大変不満足
教室	10	4	0	2
机と椅子	7	13	5	3
トイレ	14	16	3	9
校庭	5	5	1	2
その他	2	2	0	0



図4-17 トイレの写真（左：トイレ外観・右：個室内部）（出典：2019/10/16 筆写撮影）



図4-18 教室の様子 (出典：2019/10/16 筆写撮影)



図4-19 校庭の写真 (出典：2019/10/16 筆写撮影)

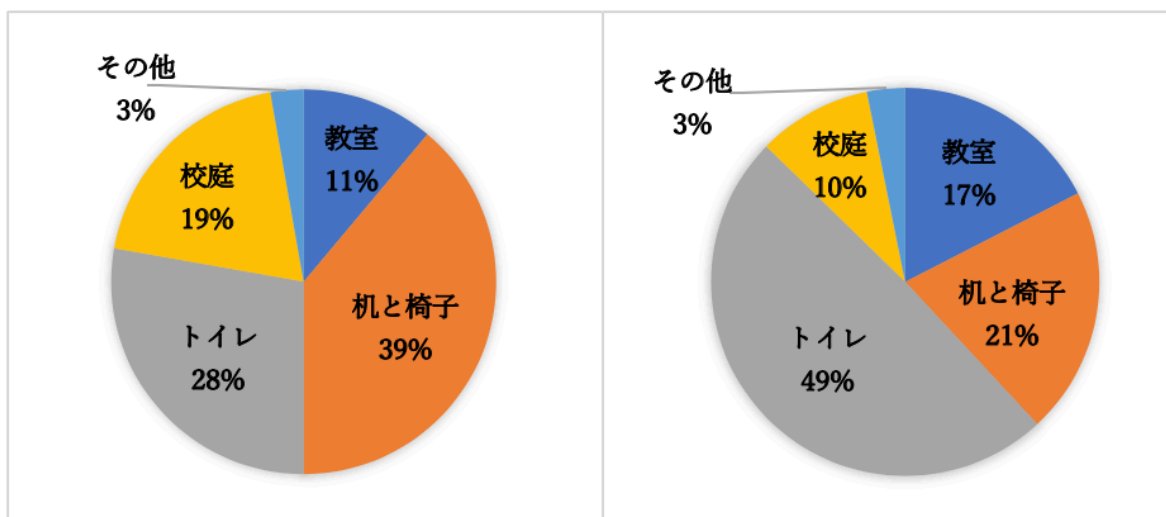


図 4-20 学校施設改善点 (男子)

図 4-21 学校施設改善点 (女子)

4-7. 教員のケア

出席状況と教員のケアには相関が見られ ($r=0.414$)、教員に気にかけてもらっていると感じている生徒の出席状況がより良好であることが明らかになった。本稿で述べる教員のケアとは「教員はあなたのことをどれくらい気にかけてくれますか。」という質問に対しとても良い・良い・だいたい良い・良くないの4件法で回答した結果から測定しており、回答を4~1点に点数化したときの評価と生徒の出席状況に相関が見られたことを示している。

では、夜間学校生徒はどのような要素をもって教員にケアされていると判断しているのだろうか。表4-5は教員のケア度合いと各要因との相関係数を示している。相関係数が最も高かったのは「教員の質問への回答態度」であった ($r=0.639$)。次いで「教員の生徒への個人認識」 ($r=0.350$)、「教員との会話頻度」 ($r=0.315$)と続いた。また、「教員への質問頻度」について質問した結果は、4件法の回答を1~4点に点数化した時の平均が2.86となっており、教員への質問自体は珍しいことではないとわかる。しかし、夜間学校では授業間に休憩時間が設けられておらず、40分授業を4コマ立て続けに行うため、生徒の質問全てに丁寧に回答するのは教員にとっても困難であることが視察からうかがわれた。「教師の生徒への個人認識」について夜間学校教員からは、昼間の通常クラスに比べ夜間は出席率が低く毎日出席している生徒が異なる上、授業開始時の出欠確認もなく、生徒の名前と顔を覚えるのが困難であるとの状況説明がなされた。

表 4-5 教員のケアと関係する要因

	相関係数 ⁴⁰
教員の質問への回答態度 ⁴¹	0.639 **
教員の生徒への個人認識 ⁴²	0.350 **
教員との会話頻度 ⁴³	0.315 **

4-8. 調査分析のまとめ

既存研究においては成人教育の欠席理由は就業との両立困難であると説明されてきたが (Pankhurst, 2015, 齋藤, 2005)、夜間学校での二次調査においては職業と出席状況には有意な関係が認められなかった。一方で、教科理解度、教科満足度、学校施設満足度、教員のケアの4つの要因と出席状況との関連が認められた。

さらに、教科理解度を規定する要因を分析すると、夜間学校生徒の使用可能言語が教科理解度に影響を与えている状況が明らかになった。夜間学校生徒の使用可能言語は学校の所在地である首都アディスアベバの言語状況よりもエチオピア全国の言語状況に類似しており、多様な言語使用者が集う夜間学校の状況はエチオピアにおいても特異な状況であると確認された。

教科満足度の改善に寄与すると考えられる教科ごとの改善希望点については、英語以外の4教科で「難しくする」が「簡単にする」を上回り、難易度以外の項目では「宿題を出す」最も多く選択された。夜間学校生徒の学習への意欲が伺える結果であると同時に、自主学習の支援が求められていることが明らかになった。

学校施設満足度では、夜間学校生徒の4人に1人が学校施設に関し何らかの不満を持っていることが明らかになった。改善希望点ではトイレが最も多く選ばれ、女子生徒においては改善希望点の約半数をトイレが占める結果となった。

教員のケアを規定する要因としては、「教員の質問への回答態度」「教員の生徒への個人認識」「教員との会話頻度」の3つが有意な関係であることが明らかになった。しかし、夜間学校の時程や生徒の出席状況から、教員側がこれらのニーズに応えるのが困難である状況も確認された。

40 **は1%、*は5%の有意水準であることを表している。

41 大変良い・良い・だいたい良い・良くないの4件法による回答を4~1点に点数化した。

42 いつもする・ときどきする・ほとんどしない・全くしないの4件法による回答を4~1点に点数化した。

43 いつもする・ときどきする・ほとんどしない・全くしないの4件法による回答を4~1点に点数化した。

5章 結論

5-1. 研究成果

本研究は中退経験者にとって有効な教育機会とはどのようなものかを大きなテーマとし、復学者と非復学者の違いおよびエチオピアで実施されている代替教育について分析したほか、アディスアベバの夜間学校を事例に出席状況に影響する要因を就業以外から明らかにした。初等教育修了率の低さが教育分野の大きな課題となっているエチオピアにおいて、すでに蓄積されてきた中退を防ぐ観点からの研究ではなく、中退後の学習機会に焦点を当てた研究を実施したことには意義があると考えている。

既存研究によって示されていなかった復学者と非復学者の違いを明らかにした点、体系的に整理された文献が不足していたエチオピアの代替教育について文献調査と現地調査を組み合わせることで各教育機会の特徴を整理した点は、本研究の成果であるといえるだろう。また、本研究の中心となったアディスアベバの夜間学校における出席状況に影響する要因の分析では、既存研究で指摘されていた就業状況以外に、教科の理解度および満足度、学校施設の満足度、教員のケアが出席状況に影響を与えていると明らかにすることができた。

以上の研究成果をもとに、夜間学校の課題である低い出席率を改善するための提言を以下に述べたい。

5-2. より有効に機能する夜間学校に向けての提言

前章の図4-2でも示したように、夜間学校生徒の入学動機では「学習内容の習得」(43%)が最も選ばれている。夜間学校の授業を視察すると、どの生徒も皆真剣に学んでおり学習意欲の高さを感じられ、特定技能や転職活動以前に学びたいという志自体が入学の動機となっていることも頷ける。

しかし、夜間学校生徒の初等教育修了試験の合格率が比較的高い年度においても23%と低いことは先に述べた通りである。初等教育修了試験は年度によって多少のばらつきがあるものの概ね50%程度の正解率を合格基準としており、試験の内容も初等教育カリキュラムに基づくものであることから、修了試験の合格率が著しく低い現状では、多くの夜間学校生徒の入学動機である学習内容の習得は達成できていないと言わざるを得ない。前章で述べたように、教科の理解度と出席状況には相関が見られるため、出席状況の改善と教科理解度の改善の両観点から、前章の調査結果に基づきより有効に機能する夜間学校に向けた提言を行う。

5-2-1. 言語状況に応じた措置

質問紙調査から、夜間学校生徒は出稼ぎ等を目的として全国各地から首都アディスアベバに移住しており、使用可能言語に大きなばらつきがあること、各教科の理解度は教授言語のレベルに左右されていることが合わせて明らかとなった。これらの結果から、教授言語である言語を不得手とする生徒に対するフォローアップの機会が必要であるといえる。

ここで 1 章の研究背景で触れたエチオピアの教育制度改革における言語政策について今一度確認しておきたい。2020 年度から施行予定の新制度では母語である各地域言語をより重視し、就学前教育から教科として教えていく他、教授言語としても前期中等教育（第 8 学年）までは各地域言語を使用するとしている。アムハラ語以外を地域言語とする地域では公用語であるアムハラ語は教科として初等教育第 3 学年から学習する。教科としての英語教育は現行の制度と同様に初等教育第 1 学年から開始され、後期中等教育（第 9 学年）からは教授言語として英語が使用される。つまり、調査対象としたアディスアベバの夜間学校では第 1 学年から第 8 学年まで全ての学年で教授言語がアムハラ語となるのである。調査時にはファーストサイクルの教授言語はアムハラ語、セカンドサイクルの教授言語は英語であったため、アムハラ語を使用可能言語とする生徒の教科理解度における優位性はセカンドサイクルでは失われていることが確認されたが、新制度のもとではアムハラ語を使用可能言語とする生徒の優位、言い換えればそれ以外の生徒の劣位が在学期間全体を通して維持される可能性が高い。さらに、地方出身の中退経験者が多数を占める夜間学校において、アムハラ語以外を地域言語とする地域で現在は第 1 学年から実施されている教科としてのアムハラ語学習が第 3 学年からになることの弊害も大きいと予想される。初等教育初期に出身地方の学校を中退した場合、アムハラ語習得レベルが低いまま夜間学校に入学することになり、教授言語の理解がより困難になるためである。このような教育制度改革における言語政策を鑑み、夜間学校における教授言語であるアムハラ語のフォローアップ機会を設けることの重要性はさらに高まるといえるであろう。

現在の時間割ではファーストサイクルで週 5 コマ、セカンドサイクルで週 3 コマ、アムハラ語の授業が実施されている。しかし、ファーストサイクルの最終学年である第 4 学年の教科理解度においても、他言語話者と比較してアムハラ語話者の優位が確認されることから、アムハラ語の授業時間内のみでは教授言語の理解レベルの差が埋まらない状況がうかがえる。そこで、アムハラ語以外の科目において、当該授業で使用する語彙について噛み砕いた説明を実施し、生徒の理解を確認するなどの工夫が求められる。教員が各生徒の母語で説明することは困難であるが、日々の蓄積を考慮すれば、アムハラ語による直説法で語彙の理解を促進する意義は大きいであろう。

また、夜間学校の授業時間は 17:30~20:10 であるが、実施時間の適切性を問うた質問の回答は、「適当」33%、「早すぎる」29%、「遅すぎる」38%となっており、ばらつきがみられた。そこで、授業時間の前後にアムハラ語を自主的に学習する機会を設けられるのではないかと考える。教室は昼間学校が終

了する 15:30 以降空いている上、授業で使用している教科書は学校が保管しているため使用許可を得ることが可能であろう。少人数であれば授業中と異なり教科書が不足する問題も回避できるため効率的に補習ができ、有効なキャッチアップの機会となり得る。

今後、地域言語を重視する方針の新制度のもとで夜間学校においては逆説的にアムハラ語の重要性が高まることが予測される。多言語国家エチオピアの縮図ともいえる言語状況をもつ夜間学校であるからこそ、母語によって劣位に置かれる生徒がでないようフォローアップを工夫していく姿勢が求められる。

5-2-2. 自主学習の支援

各教科の改善希望点では、「難しくする」および「簡単にする」の難易度に関するものと「宿題を出す」が全教科を通じて多く選択された。難易度については、英語以外全ての科目で「難しくする」が「簡単にする」を上回ってはいるものの、「簡単にする」も一定数選択されている。生徒の教科理解度と希望する授業の難易度にばらつきがあり、かつ夜間学校は昼間学校に比べ授業時間が限られていることから教科書に掲載されている内容を授業で網羅できていない状況が生じており、生徒は自主学習機会の拡充手段として「宿題を出す」を選択していると考えられる。また、本研究で問題としている夜間学校の低い出席率に対しても自宅学習の機会是有効な補習手段であると考えられる。

上述した理解度のばらつき、授業時間の不足、欠席時の補習機会の観点から、夜間学校の現状に対して宿題を通じた自主学習の機会を設けることが有効であると確認できる。さらに、大まかな授業予定とともに宿題を單元ごとなどある程度まとまった単位で提示することが有効であると考えられる。夜間学校では教科書の本数が不足しており、教科書を学校で管理し授業中のみ配布する、もしくは教員のみ教科書を用いて授業を行っているため、生徒による予復習が困難である上、当該学習内容が單元全体でまたは教科全体でどのような位置付けにあるのかを理解することが難しく、体系的理解を妨げている。授業予定とともにある程度まとまった単位で宿題を課すことで、予復習および教科の体系的理解の助けになるであろう。前述した生徒間の教科理解度のばらつきと就業している生徒が大多数である状況を鑑み、全員が取り組む初歩的課題、希望者が取り組む発展的課題と段階別に分類されていればより生徒の希望に答えられるのではないだろうか。

既存研究の項で参照したインドの全体識字キャンペーン (Total Literacy Campaign) では、成功要因のひとつとして学習達成を自己評価できるワークブックの活用が挙げられている。同キャンペーンでは一貫して参加者のモチベーション維持が重視されているが、ワークブックは学習内容の定着を図るだけでなく、各レベルの学習達成を実感しモチベーションを保つ効果があったと評価されている (National Literacy Mission)。このような事例から、夜間学校においても單元ごとの宿題実施を通じて、授業時間の不足や欠席による学習内容の未定着を補完するだけでなく、習熟度別の学習達成を実感しモチベーショ

ンを維持することができると考えられる。さらに、授業予定の把握および宿題の解答確認が学習の能動性を高め、出席のモチベーションにつながる効果も期待できる。

5-2-3. 施設の追加整備

学校施設満足度と出席状況に相関が見られたことから学習環境を整える重要性は明らかであるが、施設整備は他の提言項目と異なり、工夫で改善できる範囲が狭く予算制限に左右される項目である。そのため大掛かりな予算と施工を伴う改善は困難であろう。しかし、施設使用時間帯が夜間であるからこそ問題になる部分への追加整備を行うことは有効であるといえる。具体的に最も費用対効果が高いと考えられるのは、トイレへの電灯設置である。質問紙調査からは約半数、女子では6割を上回る生徒がトイレを改善希望点として選択している。昼間であれば自然光で対応できるものの夜間学校の実施時間帯にはその暗さから利用に困難をきたす状態であるトイレに簡易的なライトであっても設置ができれば状況の改善が望める。女子が7割以上を占める夜間学校において有効な設備投資であると考えられる。

5-2-4. 教員による対応

教員の生徒に対する態度、具体的には教員の質問に対する回答態度や生徒個人を認識しているかどうか等が出席状況に影響を与えていることが明らかになった。教員個人の意識や意欲に左右される項目であることは自明であるが、制度としてこれらの改善を検討するとすれば、出欠管理と休憩時間の確保が有効な手段であると考えられる。昼間学校で実施されている出欠確認は夜間学校では行われていない。出欠状況を把握することで得られる学校統計の価値もさることながら、教員が出欠確認を通して生徒個人を認識する意義も大きいであろう。教員による個人認識が生徒の出席へのモチベーションにつながるほか、授業中の指名を可能にするなど授業の質向上にもつながる可能性がある。また、教員が生徒の質問に丁寧に回答できない一因としては、夜間学校には休憩時間が設けられておらず授業終了と同時に次の授業を開始しなければならないため質問に対応する時間が不足していることが挙げられる。授業間に5~10分の休憩時間を設けることで質問やコミュニケーションの時間が得られ、生徒の満足度向上、ひいては出席状況の改善に寄与するのではないだろうか。

5-3. 今後の課題

本研究の調査方法については、夜間学校の出席状況を問題の所在として挙げていながら、出席している生徒のみを対象としてインタビューおよび質問紙調査を実施しており、欠席している生徒の状況把握ができていないことが弱点である。また、個人を特定する出欠および進級または中退に関するデータが得ら

れない中で論を立てているため、調査時の一時点における結果に過ぎず、長期的視点が不足していることも改善点として挙げられる。

本研究で答えられなかった問いとして、夜間学校における女子の初等教育終了試験合格率が男子に比べ低い理由の解明が残されている。4章の表4-2で示した通り、夜間学校における初等教育終了試験合格率はデータが得られた4年間全てで男子の方が女子よりも高く、違いが大きい年度では7倍もの差になっている。しかし、4件法で尋ねた出席状況⁴⁴を男女別に見ると、男子では2.3~3.7の間に半数が分布し平均3.0なのに対し女子は3.0~4.0の間に半数が分布し平均3.2となり、女子の方が良好である。さらに、同じく4件法で尋ねた教科理解度⁴⁵について男女別に見ると、男女共に2.0~3.0の間に半数が分布するが、平均では男子2.5に対し女子2.7と僅差ではあるが、こちらも女子の方が高い。よって、本研究の調査結果からは、女子の合格率の低さを説明する要因は発見できなかった。これは女子が7割以上を占める夜間学校において大変大きな問題であると考えられるため、理由の解明を今後の課題としたい。

⁴⁴ 出席状況は質問紙調査における生徒の回答に基づくもので、全て出席・だいたい出席・ほとんど欠席・全て欠席の4件法による自己申告である。これを1~4点に点数化し計算している。

⁴⁵ 教科理解度は質問紙調査における生徒の回答に基づくもので、よく理解している・理解している・少し理解している・全く理解していないの4件法による自己申告である。これを1~4点に点数化し計算している。

付録1. 質問紙

【Basic questions መሰረታዊ ጥያቄዎች፡፡】

1. Age/ ዕድሜ : _____
2. Sex/ ምጽታ : Male/ ወንድ፡፡ Female/ ሴት፡፡ Other/ ሌላ፡፡
3. Marital status/የጋብቻህኑ፡፡ Married/ ያገባ/ች Single/ ያላገባ/ች Divorce/ የፈታ/ች
4. Current grade/ የክፍል ደረጃ፡፡ : 1 ኛ 2 ኛ 3 ኛ 4 ኛ 5 ኛ 6 ኛ 7 ኛ 8 ኛ
5. Admission year/ የገባበት/ችበት ዓመት : _____ E.C
6. Have you ever repeated the same grade? / ደግመህ/ሽ ታውቃለህ/ሽ ? : Yes/ አዎ No/ አይ
 → If yes, When? / አዎከሆነ፣መቼ? : 1 ኛ 2 ኛ 3 ኛ 4 ኛ 5 ኛ 6 ኛ 7 ኛ 8 ኛ
7. Where do you live now? / አሁን የት ነው የምትኖረው/ሪ?
 ቦሌ የካ ቂርቆስ ንፋስ ስልክ ላፍቶ አራዳ ጊያሳ ልደታ ቡራዩ Other/ ሌላ
8. Whom do you live with? / ከማን ጋር ነው የሚኖሩት?
 Parents/ ከወላጆች ጋር Brother or sister/ ከወንድም ወይም እህት Relative/ ከዘመድ ጋር Friend/ ከጓደኛ ጋር
 Other/ ሌላ (_____)
9. Where are you from? / ከየት ነው የመጣሽው/ሽ?
 Addis Ababa/ አዲስአበባ Afar/ አፋርክልል Amhara/ አማራክልል Benishangul-Gumuz/ ቤንሻንጉልጉሙዝክልል
 Dire Dawa/ ድሬዳዋ Gambela/ ጋምቤላክልል Harari/ ሓረሪክልል Oromia/ ኦሮሚያክልል Somali/ ሶማሊክልል
 Southern Nations, Nationalities, and Peoples'/ ደቡብ-ብሔሮች-ብሔረሰቦችናሕዝቦችክልል Tigray/ ትግራይክልል
 Other Country/ የውጭ-ሀገራት (_____)
10. What languages can you speak? (Multiple answers) / ምን ቋንቋዎችን መናገር ይችላሉ? (በርካታ መልሶች፡፡)
 Amharic/አማርኛ Oromo/ኦሮሞኛ Somali/ሶማሊኛ Tigrinya/ትግርኛ Sidamo/ሲዳሞኛ Wolaytta/ወላይትኛ
 Gurage/ጉራጊኛ Afa/አፋርኛ Hadiyya/ሀድይኛ Gamo-Gofa-Dawro/ጋሞ ንፋ ዳውሮ English/እንግሊዝኛ
 Other/ ሌላ (_____)
11. How long have you studied Amharic? / አማርኛ ለምን ያህል ጊዜ ተምረዋል?
 Less than 1year/ ከአንድ ዓመት በታች 1~2years/ከ1-2 ዓመት 3~4years/3-4 ዓመት 5years or more/ 5 ዓመትና ከዚያ በላይ
12. What is your level of Amharic? / የአማርኛ ደረጃዎ ምንድነው? :
 Native/ አፍ መፍቻ Fluent/ ቅልጥፍና Intermediate/ መካከለኛ Beginner/ ጀማሪ
13. How long have you studied English? / እንግሊዝኛ ቋንቋን ለምን ያህል ጊዜ ተምረዋል?
 Less than 1year/ ከአንድ ዓመት በታች 1~2years/ከ1-2 ዓመት 3~4years/3-4 ዓመት 5years or more/ 5 ዓመትና ከዚያ በላይ
14. What is your level of English? / የእንግሊዝኛ ደረጃዎ ምንድነው?
 Native/ አፍ መፍቻ Fluent/ ቅልጥፍና Intermediate/ መካከለኛ Beginner/ ጀማሪ
15. Have you ever studied in elementary school? / አንደኛ ደረጃ ተምረው ያውቃሉ? : Yes/ አዎ No/ አይ
 →15-1. if yes, what grade did you drop out? /መልስዎ አዎ ከሆነ የትኛውን ክፍል ነው ያቋረጡት?
 1 ኛ 2 ኛ 3 ኛ 4 ኛ 5 ኛ 6 ኛ 7 ኛ 8 ኛ
 15-2. What is the reason of drop out? /ያቋረጡበት ምክንያት ምንድነው?
 Lack of funds/ የገንዘብለጥረት Have to work/ ሥራ Move to other place / ወደ ሌላ በመሄድ
 Work in foreign country / ወደ ውጭ ሀገር መውጣት Suggestion from parents / የወላጆች ግፊት
 Lack of interest /ፍላጎት ማጣት Do not like school / ትምህርት ቤት አለመውደድ Other/ ሌላ (_____)
16. Do you have a job now? / አሁን ሥራ አለዎት? : Yes/ አዎ No/ አይ
 →16-1. if yes, what kind of job? / አዎ ከሆነ፣ ምን አይነት ስራ ነው?

- Baby-sitter/ ሞግዚት Carpenter/ አናጠ. Cashier/ ገንዘብተቀባይ Clerk/ ቄስ Driver/ ሹፌር Engineer/ ሙሐንዲስ
 - Farmer/ ገበሬ Maid/ የቤት እመቤት Security-guard/ ዘበኛ Tailor/ ልብስ ሰፊ Teacher/ መምህር Other/ ሌላ ()
- 16-2. How long have you been in that business? / በዚያ ስራ ውስጥ ምን ያህል ጊዜ ቆይተዋል?
Less than 1year/ ከአንድ ዓመት በታች 1~2years/ከ1-2 ዓመት 3~4years/3-4 ዓመት 5years or more/ 5 ዓመትና ከዚያ በላይ
- 16-3. From what time to what time do you work? / ከየትኛው ሰዓት እስከ ምን ሰዓት ነው የሚሰሩት? _____ : _____ ~ _____ : _____
17. Do you have any other work experiences? / ሌላ የስራ ልምዶች አለዎት?
Baby-sitter/ ሞግዚት Carpenter/ አናጠ. Cashier/ ገንዘብተቀባይ Clerk/ ቄስ Driver/ ሹፌር Engineer/ ሙሐንዲስ
- Farmer/ ገበሬ Maid/ የቤት እመቤት Security-guard/ ዘበኛ Tailor/ ልብስ ሰፊ Teacher/ መምህር Other/ ሌላ ()

【Family/ ቤተሰብ】

18. Please tell me about your family structure. / አባክዎን የቤተሰብ ሁኔታ ይንገሩኝ::
 (Please check the member and write the number of people./አባክዎ አባላቱን ያረጋግጡ እና የሰዎችን ቁጥር ይጻፉ)
Father/ አባት Mather/ አናት Older brother/ ታላቅ ወንድም () Younger brother/ ታናሽ ወንድም ()
Older sister/ ታላቅ እህት () Younger sister/ ታናሽ እህት ()
19. Please tell me about your family's educational background. /አባክዎን ስለቤተሰብዎ አስተዳደግ ትምህርት ይንገሩኝ::
 (Please write the grades that each member completed. / አባክዎን እያንዳንዱ አባል ያጠናቀቁትን ክፍሎች ይጻፉ::)
 Father/ አባት() Mather/ አናት () Older brother/ ታላቅ ወንድም () Younger brother/ ታናሽ ወንድም ()
 Older sister/ ታላቅ እህት () Younger sister/ ታናሽ እህት ()

【Learning motivation/ የመማር ተነሳሽነት】

20. How did you get information about this evening school? / ስለዚህ የምሽቱ ትምህርት ቤት መረጃ እንዴት አገኙ?
From family member/ ከቤተሰብ አባል:: From friend/ ከዳድኛ:: From school information/ ከትምህርት ቤት መረጃ
From government agencies/ ከመንግስት ወኪሎች:: Other/ ሌላ()
21. How did you enter this evening school?
Decided by myself/ የወሰንኩትበራሴነው Decided by family member/ በቤተሰብአባልተወስኗል::
Decided by employer/ በአሠራተወስኗል:: Other/ ሌላ()
22. What is your motive for coming this school? (Multiple answers) /
 ወደዚህ ትምህርት ቤት ለመምጣት ያገኙት ፍላጎት ምንድነው? (በርካታ መልሶች::)
To get certification of elementary school graduation / የአንደኛ ደረጃ ትምህርት ቤት የምስክር ወረቀት ለማግኘት
To study the contents of elementary school/ የአንደኛ ደረጃ ትምህርትን ይዘት ለማጥናት::
 (If you select this answer, to what level do you want to learn? ይህንን መልስ ከመረጡ ለመማር የትኛውን ደረጃ መማር ይፈልጋሉ?
1ኛ 2ኛ 3ኛ 4ኛ 5ኛ 6ኛ 7ኛ 8ኛ)
To study Amharic/ አማርኛ ለማጥናት:: To study English / እንግሊዝኛ ለማጥናት:: To study calculation/ ማስላት ለማጥናት::
To go to secondary school/ ወደሁለተኛ ደረጃ ትምህርት ቤት ለመሄድ: To get a better job/ የተሻለውን ሥራ ለመለወጥ
Other/ ሌላ()

【Class/ ክፍል】

- 23-1. How often do you attend Amharic class? / በሳምንት ስንት ጊዜ በአማርኛ ትምህርት ይማራሉ?
All of the time/ ሁልጊዜ:: Some of the time/ አንዳንድ ጊዜ Hardly ever/ መቼም Never/ በጭራሽ::
- 23-2. How much do you understand Amharic class? / የአማርኛን ክፍል ምን ያህል ያውቃሉ?
Very much/ እጅግ በጣም Quite a lot/ በጣም ብዙ A little/ ትንሽ Not at all/ በፍፁም
- 23-3. How much do you satisfied with Amharic class? / በአማርኛ ክፍል ምን ያህል ረከተዋል?
Very much/ እጅግ በጣም Quite a lot/ በጣም ብዙ A little/ ትንሽ Not at all/ በፍፁም

- Extremely satisfied/ በጣም ረከቻለሁ። Slightly satisfied/ በትንሹ ረከቻለሁ።
 - Slightly dissatisfied/ በትንሹ ተደስቼያለሁ። Extremely dissatisfied/ በጣም አልረከሁም።
- 23-4. Please select the points of improvement about Amharic class. / እባክዎን ስለ አማርኛ ቋንቋ ማሻሻያ ነጥቦች ይምረጡ።
 (Please write the priority order 1~3. If there is no applicable item, please select “no” /
 እባክዎን የቅድሚያ ትእዛዝ 1 ~ 3 ይጻፉ። የሚመለከተውን ጥል ከሌለ እባክዎን “አይ” ን ይምረጡ)
- () Make it easier/ ቀላል ያድርጉት። () Make it more difficult/ የበለጠ ከባድ ያደርጉዋል።
 - () Increase the number of textbook/ የመማሪያ መጽሐፍ ቁጥርን ይጨምሩ () Give homework/ የቤት ስራ ይሰጡ
 - () Increase student speaking opportunities/ የተማሪ የመናገር እድሎችን ይጨምሩ
 - () Reduce board writing/ የቦርድ ጽሑፍን ይቀንሱ () Other/ ሌላ() No/ አይ

- 24-1. How often do you attend English class? / በእንግሊዝኛ ክፍል ምን ያህል ጊዜ ይማራሉ?
- All of the time/ ሁልጊዜ። Some of the time/ አንዳንድ ጊዜ Hardly ever/ መቼም Never/ በጭራሽ።
- 24-2. How much do you understand English class? / የእንግሊዝኛ ክፍልን ምን ያህል ያውቃሉ?
- Very much/ እጅግ በጣም Quite a lot/ በጣም ብዙ A little/ ትንሽ Not at all/ በፍፁም
- 24-3. How much do you satisfied with English class? / በእንግሊዝኛ ክፍል ምን ያህል ረከተዋል?
- Extremely satisfied/ በጣም ረከቻለሁ። Slightly satisfied/ በትንሹ ረከቻለሁ።
 - Slightly dissatisfied/ በትንሹ ተደስቼያለሁ። Extremely dissatisfied/ በጣም አልረከሁም።
- 24-4. Please select the points of improvement about English class. / እባክዎን ስለ እንግሊዝኛ ክፍል የማሻሻያ ነጥቦች ይምረጡ።
 (Please write the priority order 1~3. If there is no applicable item, please select “no” /
 እባክዎን የቅድሚያ ትእዛዝ 1 ~ 3 ይጻፉ። የሚመለከተውን ጥል ከሌለ እባክዎን “አይ” ን ይምረጡ)
- () Make it easier/ ቀላል ያድርጉት። () Make it more difficult/ የበለጠ ከባድ ያደርጉዋል።
 - () Increase the number of textbook/ የመማሪያ መጽሐፍ ቁጥርን ይጨምሩ () Give homework/ የቤት ስራ ይሰጡ
 - () Increase student speaking opportunities/ የተማሪ የመናገር እድሎችን ይጨምሩ
 - () Reduce board writing/ የቦርድ ጽሑፍን ይቀንሱ () Other/ ሌላ() No/ አይ

- 25-1. How often do you attend Math class? / የሂሳብ ትምህርት ምን ያህል ጊዜ ነው የሚማሩት?
- All of the time/ ሁልጊዜ። Some of the time/ አንዳንድ ጊዜ Hardly ever/ መቼም Never/ በጭራሽ።
- 25-2. How much do you understand Math class? / የሂሳብ ትምህርት ምን ያህል ያውቃሉ?
- Very much/ እጅግ በጣም Quite a lot/ በጣም ብዙ A little/ ትንሽ Not at all/ በፍፁም
- 25-3. How much do you satisfied with Math class? / በሂሳብ ትምህርት ምን ያህል ረከተዋል?
- Extremely satisfied/ በጣም ረከቻለሁ። Slightly satisfied/ በትንሹ ረከቻለሁ።
 - Slightly dissatisfied/ በትንሹ ተደስቼያለሁ። Extremely dissatisfied/ በጣም አልረከሁም።
- 25-4. Please select the points of improvement about Math class. / እባክዎን ስለ የሂሳብ ክፍል የማሻሻል ነጥቦች ይምረጡ።
 (Please write the priority order 1~3. If there is no applicable item, please select “no” /
 እባክዎን የቅድሚያ ትእዛዝ 1 ~ 3 ይጻፉ። የሚመለከተውን ጥል ከሌለ እባክዎን “አይ” ን ይምረጡ)
- () Make it easier/ ቀላል ያድርጉት። () Make it more difficult/ የበለጠ ከባድ ያደርጉዋል።
 - () Increase the number of textbook/ የመማሪያ መጽሐፍ ቁጥርን ይጨምሩ () Give homework/ የቤት ስራ ይሰጡ
 - () Supply textbooks in other ethnic languages/ በሌሎች የጎሳ ቋንቋዎች የመማሪያ መጽሐፍትን አቅርቡ
 - () Teaching in other ethnic languages/ በሌሎች የጎሳ ቋንቋዎች ማስተማር
 - () Increase student speaking opportunities/ የተማሪ የመናገር እድሎችን ይጨምሩ
 - () Reduce board writing/ የቦርድ ጽሑፍን ይቀንሱ () Other/ ሌላ() No/ አይ

- 26-1. How often do you attend Science class? / ምን ያህል ጊዜ በሳይንስ ክፍል ይማራሉ?
- All of the time/ ሁልጊዜ። Some of the time/ አንዳንድ ጊዜ Hardly ever/ መቼም Never/ በጭራሽ።
- 26-2. How much do you understand Science class? / የሳይንስ ክፍልን ምን ያህል ያውቃሉ?

Very much/ እጅግ በጣም Quite a lot/ በጣም ብዙ A little/ ትንሽ Not at all/ በፍፁም

26-3. How much do you satisfied with Science class? / በሳይንስ ክፍል ምን ያህል ረከተዋል?

Extremely satisfied/ በጣም ረከቻለሁ። Slightly satisfied/ በትንሹ ረከቻለሁ።
 Slightly dissatisfied/ በትንሹ ተደስቼያለሁ። Extremely dissatisfied/ በጣም አልረከሁም።

26-4. Please select the points of improvement about Science class. / አባክዎን ስለ ሳይንስ ክፍል የመሻሻል ነጥቦችን ይምረጡ።

(Please write the priority order 1~3. If there is no applicable item, please select “no” /

አባክዎን የቅድሚያ ትእዛዝ 1 ~ 3 ይጻፉ። የሚመለከተውን ጥል ከሌለ አባክዎን “አይ” ንይምረጡ)

- () Make it easier/ ቀላል ያድርጉት። () Make it more difficult/ የበለጠ ከባድ ያደርጉዋል።
- () Increase the number of textbook/ የመማሪያ መጽሐፍ ቁጥርን ይጨምሩ () Give homework/ የቤትስራይስጡ
- () Supply textbooks in other ethnic languages/ በሌሎች የጎሳ ቋንቋዎች የመማሪያ መጽሐፍትን አቅርቡ
- () Teaching in other ethnic languages/ በሌሎች የጎሳ ቋንቋዎች ማስተማር
- () Increase student speaking opportunities/ የተማሪ የመናገር ኢድሎችን ይጨምሩ
- () Reduce board writing/ የቦርድጽሑፍን ይቀንሱ () Other/ ሌላ() No/ አይ

27-1. How often do you attend Social science class? / በማኅበራዊሳይንስ ትምህርት ምን ያህል ጊዜ ይገባሉ?

All of the time/ ሁልጊዜ። Some of the time/ አንዳንድ ጊዜ Hardly ever/ መቼም Never/ በጭራሽ።

27-2. How much do you understand Social science class? / ማኅበራዊሳይንስ ክፍልን ምን ያህል ያውቃሉ?

Very much/ እጅግ በጣም Quite a lot/ በጣም ብዙ A little/ ትንሽ Not at all/ በፍፁም

27-3. How much do you satisfied with Social science class? / በማኅበራዊሳይንስ ክፍል ምን ያህል ረከተዋል?

Extremely satisfied/ በጣም ረከቻለሁ። Slightly satisfied/ በትንሹ ረከቻለሁ።
 Slightly dissatisfied/ በትንሹ ተደስቼያለሁ። Extremely dissatisfied/ በጣም አልረከሁም።

27-4. Please select the points of improvement about Social science class. /

አባክዎን ስለ ማኅበራዊሳይንስ ክፍል የመሻሻል ነጥቦችን ይምረጡ።

(Please write the priority order 1~3. If there is no applicable item, please select “no” /

አባክዎን የቅድሚያ ትእዛዝ 1 ~ 3 ይጻፉ። የሚመለከተውን ጥል ከሌለ አባክዎን “አይ” ንይምረጡ)

- () Make it easier/ ቀላል ያድርጉት። () Make it more difficult/ የበለጠ ከባድ ያደርጉዋል።
- () Increase the number of textbook/ የመማሪያ መጽሐፍ ቁጥርን ይጨምሩ () Give homework/ የቤትስራይስጡ
- () Supply textbooks in other ethnic languages/ በሌሎች የጎሳ ቋንቋዎች የመማሪያ መጽሐፍትን አቅርቡ
- () Teaching in other ethnic languages/ በሌሎች የጎሳ ቋንቋዎች ማስተማር
- () Increase student speaking opportunities/ የተማሪ የመናገር ኢድሎችን ይጨምሩ
- () Reduce board writing/ የቦርድጽሑፍን ይቀንሱ () Other/ ሌላ() No/ አይ

[School/ ትምህርት ቤት]

28-1. How much do you satisfied with school facilities? / በትምህርት ቤት መገልገያዎች ምን ያህል ረከተዋል?

Extremely satisfied/ በጣም ረከቻለሁ። Slightly satisfied/ በትንሹ ረከቻለሁ።
 Slightly dissatisfied/ በትንሹ ተደስቼያለሁ። Extremely dissatisfied/ በጣም አልረከሁም።

28-2. Please select the points of improvement about school facilities. (Multiple answers)/

አባክዎን ስለ ቤት መገልገያዎች የመሻሻል ነጥቦችን ይምረጡ። (ብዙ መልሶች)

- Classroom/ የመማሪያ ክፍል Desk and chare/ ዴስክ እና ድንበር Toilet/ መጻዳኛ ቤት Schoolyard/ ትምህርት ቤት
- Other/ ሌላ()

29. Is class time appropriate? / የትምህርት ሰዓት ተገቢ ነው?

Appropriate/ ተስማሚ Too late/ በጣም ዘገየ Too early/ በጣም ቀደም Other/ ሌላ ()

30. Is the period until graduation appropriate? / ምረቃ እስከ ሚጅመር በትጊዜ ድረስ ተገቢ ነው?

Appropriate/ ተስማሚ Too long/ በጣም ረጅም Too short/ በጣም አጭር Other/ ሌላ ()

31. Does the curriculum meet student needs? / ስርዓተ-ትምህርትዎ ለሌሎች ግልጽ ለሌላው የሚሆን ነው?
 Strongly agree/ በጥንቃቄ አስማማለሁ Agree/ አስማማለሁ Disagree/ አለመግባባት Strongly disagree/ በጣም አለመግባባት
 → If you select disagree or strongly disagree, what do you want to learn? /
 አለመስማማት ወይም በጣም የማይስማሙኝ መረጠውን መማር ይፈልጋለሁ? ()

【Relationship/ ግንኙነት】

32. Do you talk to your teachers about some questions during or after class? / በትምህርት ክፍል ውስጥ ወይም በኋላ ላይ ስለ አንዳንድ ጥያቄዎች ከስተማሪዎች ጋር ይነጋገራሉ?
 All of the time/ ሁልጊዜ። Some of the time/ አንዳንድ ጊዜ Hardly ever/ መቼም Never/ በጭራሽ።
33. How well do your teachers answer your questions? / አስተማሪዎችዎ ምን ያህል ጥሩ መልስ ይሰጣሉ?
 Very well/ በጣም ጥሩ Well/ ደህና Slightly well/ በትንሹ ደህና Not at all well/ በጭራሽ
34. How much do your teachers care about you? / አስተማሪዎችዎ ለእርስዎ ምን ያህል ያሳስቧቸዋል?
 Very well/ በጣም ጥሩ Well/ ደህና Slightly well/ በትንሹ ደህና Not at all well/ በጭራሽ
35. How much do your teachers identify your name and face? / አስተማሪዎችዎ ስማዎን እና ፊትዎን ምን ያህል ያውቃሉ?
 All of the time/ ሁልጊዜ። Some of the time/ አንዳንድ ጊዜ Hardly ever/ መቼም Never/ በጭራሽ።
- 36-1. Do your teachers talk to you? / አስተማሪዎችዎ ያነጋግሩዎታል?
 All of the time/ ሁልጊዜ። Some of the time/ አንዳንድ ጊዜ Hardly ever/ መቼም Never/ በጭራሽ።
- 36-2. What do you talk with teacher about? / ስለ አስተማሪው ምን ጉዳይ ገራለህ?
 About learning contents / ስለ ይዘቶች መማር About study method/ ስለ ጥናት ዘዴ
 About school life/ ስለ ትምህርት ቤት ሕይወት About personal story/ ስለ ግልታ ሪክ Other/ ሌላ ()
37. Are there any people whom you can talk about anything with? / ስለ ማንኛውም ነገር ሊያናገሩቸው የሚችሉ ሰዎች አሉ?
 Yes/ አዎ No/ አይ
 → If yes, who are they? (Multiple answers) / መልስዎ አዎ ከሆነ እነሱ እነማን ናቸው? (በርካታ መልሶች።)
 Parents/ ወላጆች Brother or sister/ ወንድም ወይም አህት Relative/ አንጻራዊ። School friend/ የትምህርት ቤት ጓደኛ
 Other friend/ ሌላ ጓደኛ Teacher/ መምህር Other/ ሌላ ()
38. Do you feel alone? / ብቸኝነት ይሰማዎታል?
 All of the time/ ሁልጊዜ። Some of the time/ አንዳንድ ጊዜ Hardly ever/ መቼም Never/ በጭራሽ።
39. Do you feel anxiety about the future? / ስለ ወደፊት ጊዜ ጭንቀት ይሰማዎታል?
 All of the time/ ሁልጊዜ። Some of the time/ አንዳንድ ጊዜ Hardly ever/ መቼም Never/ በጭራሽ።
40. Even if you cannot do it well, do you tackle eagerly? / ምንም እንኳን በጥሩ ሁኔታ መሥራት ባይችሉም እንኳን በጥንቃቄ ይሞክሩ?
 All of the time/ ሁልጊዜ። Some of the time/ አንዳንድ ጊዜ Hardly ever/ መቼም Never/ በጭራሽ።
41. How many friends do you have in this school? / በዚህ ትምህርት ቤት ስንት ጓደኞች አሉዎት? : _____
42. How often do you go out with your school friends? / ከትምህርት ቤት ጓደኞችዎ ጋር ምን ያህል ጊዜ አብረው ይወጣሉ?
 All of the time/ ሁልጊዜ። Some of the time/ አንዳንድ ጊዜ Hardly ever/ መቼም Never/ በጭራሽ።

Thank you for your cooperation! / ለትብብርዎ እና መስጫዎን!

付録 2. Fitaurari Habite 夜間学校時間割

	G1	G2	G3	G4	G5	G6	G7	G8
Monday	1 Amharic	Math	Environmental Science	Environmental Science	English	Integrated Science	Math	English
	2 Math	Environmental Science	English	English	Amharic	English	English	Ethics
	3 English	English	Amharic	Amharic	Integrated Science	Math	Social Science	Cemistry
	4 Environmental Science	Amharic	Math	Math	Math	Social Science	Biology	Math
Tuesday	1 Amharic	English	Environmental Science	Math	Integrated Science	Amharic	English	Physics
	2 Math	Math	Amharic	Environmental Science	English	English	Ethics	Biology
	3 English	Math	English	English	Math	Math	Cemistry	Social Science
	4 Environmental Science	Amharic	Math	Amharic	Amharic	Integrated Science	Math	Math
Wednesday	1 Math	Environmental Science	Amharic	English	Social Science	Amharic	English	Cemistry
	2 Amharic	Math	Math	Environmental Science	English	English	Amharic	Ethics
	3 English	English	Environmental Science	Amharic	Ethics	Ethics	Math	English
	4 Environmental Science	Amharic	English	Math	Math	Math	Social Science	Amharic
Thursday	1 Math	Environmental Science	Environmental Science	Amharic	English	Integrated Science	Biology	Social Science
	2 Amharic	Math	Amharic	Environmental Science	Social Science	Math	Ethics	English
	3 Math	Amharic	Math	English	Math	English	Amharic	Biology
	4 English	English	English	Math	Integrated Science	Amharic	Physics	Math
Friday	1 Math	Environmental Science	Environmental Science	English	English	Social Science	Physics	English
	2 Amharic	Math	Environmental Science	Environmental Science	Amharic	English	English	Physics
	3 English	English	English	Environmental Science	Math	Math	Cemistry	Amharic
	4 Environmental Science	Amharic	Math	Math	Ethics	Ethics	Math	Math

付録3. 使用可能言語別の教科理解度（算数以外⁴⁶）

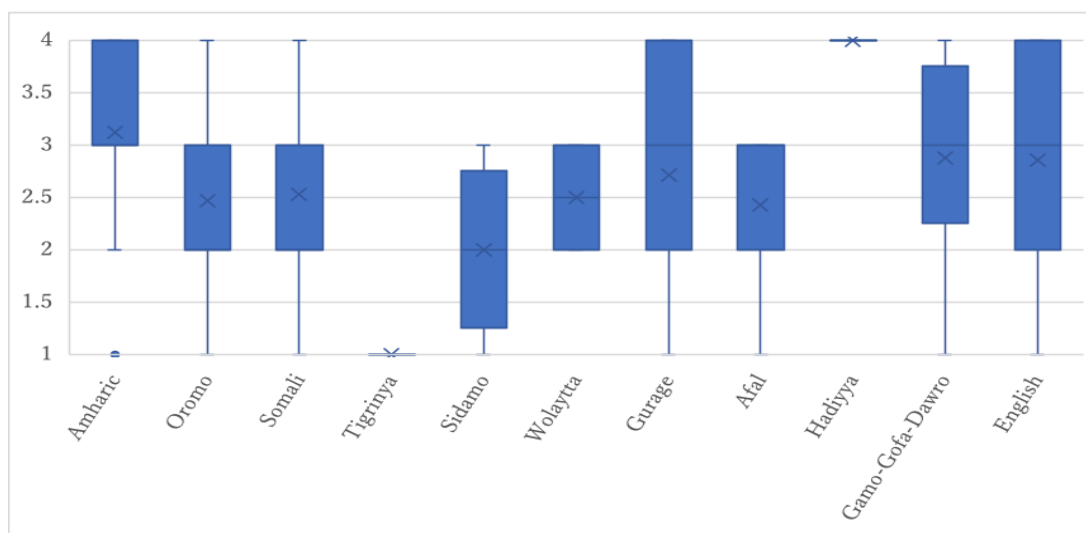


図 付録3-1 使用可能言語別のアムハラ語理解度⁴⁷

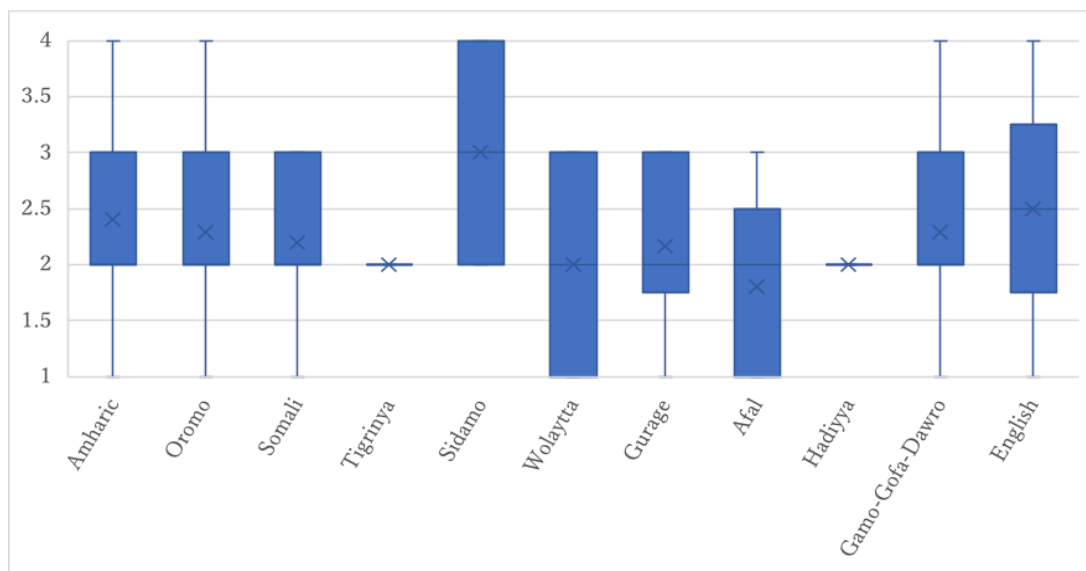


図 付録3-2 使用可能言語別の英語理解度⁴⁸

⁴⁶ 使用可能言語別の算数理解度は図4-11として掲載済み。

⁴⁷ ここでいう「アムハラ語」は教科としてのアムハラ語である。

⁴⁸ ここでいう「英語」は教科としての英語である。

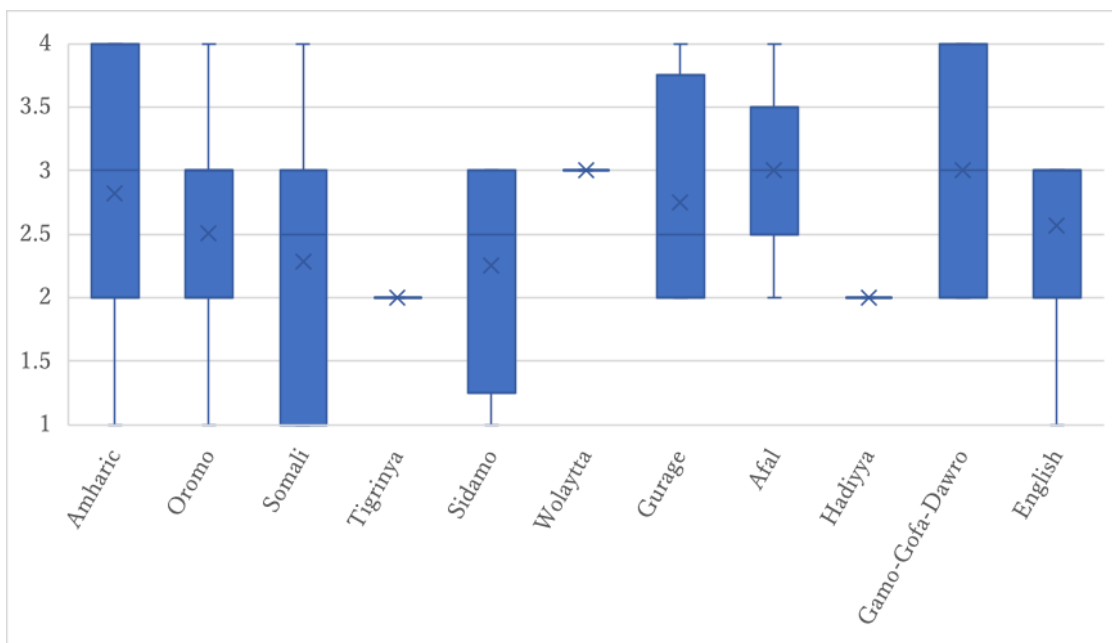


図 付録3-3 使用可能言語別の理科理解度

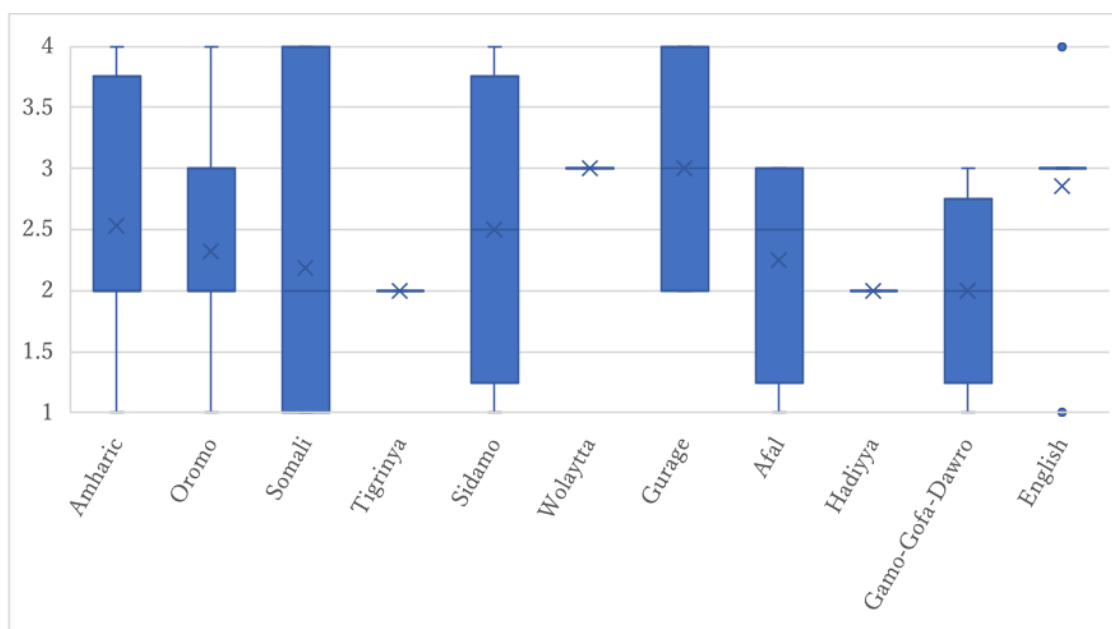


図 付録3-4 使用可能言語別の社会理解度

謝辞

本研究を進めるにあたり、多くの方々ご指導とご支援を賜りました。ここに感謝の意を述べさせていただきます。

本研究の指導教員である、東京大学大学院新領域創成科学研究科国際協力学専攻 准教授 坂本麻衣子先生には、研究の方針をはじめとして、技術的なご指導、数多くのご助言を賜りました。本研究を遂行することができたのは、研究経験の乏しい筆者の意見に辛抱強く耳を傾け、適切にご助言くださった先生のご指導があったからこそだと思っております。心より感謝を申し上げます。

副査を務めていただいた東京大学大学院新領域創成科学研究科国際協力学専攻 教授 山路永司先生、同じく副査を務めていただいた東京大学大学院新領域創成科学研究科国際協力学専攻 准教授 鈴木綾先生には、ご多忙中にもかかわらず貴重なお時間をいただき、大変丁寧にご指導いただきました。深く感謝致します。

研究室の博士課程の緒方さん、菊池さん、先輩である岡本さん、菊池さん、佐藤さん、同輩である佐藤さん、西浦さん、後輩である横尾さん、Salma さんとは、研究活動において互いに意見を交換し、また励まし合い、切磋琢磨しながら研究を進めることができました。大学院生活を有意義なものにくださった研究室の皆様はじめ専攻の皆様にも心より感謝致します。

現地調査では、国際協力機構エチオピア事務所所長の晋川様、次長の松山様、田中様、教育分野担当のBiruk さん、協力隊の上原さん、寺川さん、西田さん、調査対象校のRobel 先生をはじめ多くの方々にご支援いただきました。本研究を通して皆様に出会えたことを心より嬉しく思います。改めて手厚いご支援に感謝申し上げます。

そして、筆者がフィールドワークを含む研究活動を行うことに全面的に協力し、応援してくれた夫と息子をはじめとする家族に心から感謝しています。

最後になりましたが、インタビューや質問紙調査にご協力いただいたエチオピアの皆様、アムセグナロ (አሙሰግናሊሁ)。

本研究がエチオピアの中退経験者の学習機会に少しでも寄与することを祈っています。

参考文献

- Hailu, Addisalem T., Dessalegn K., and Biniam W. (2019). Drop Out Among Primary School Students: Reasons, Experience and Mitigating Mechanisms: In Case of Bench-Maji Zone Shey-Bench Wereda.
- Mengistie R., Zenawi Z., Chalachew W., Seid E,1 and Abate K. (2017). A Comparative Analysis of the Academic Achievement of Students in Speed School Classrooms and Conventional School Classrooms in Selected Primary Schools in the Regional State of Tigray: Submitted to Geneva Global Ethiopia.
- Ministry of Education. (1994). Education and Training Policy.
- Ministry of Education. (2002a). EDUCATION SECTOR DEVELOPMENT PROGRAM II (ESDP-II)
- Ministry of Education. (2002b). Education statistics. Annual abstract 1994.E.C. (2001-02)
- Ministry of Education. (2005). EDUCATION SECTOR DEVELOPMENT PROGRAM III (ESDP-III)
- Ministry of Education. (2008a). National Adult Education Strategy.
- Ministry of Education. (2008b). General Education Quality Improvement Program (GEQIP)
- Ministry of Education. (2010). EDUCATION SECTOR DEVELOPMENT PROGRAM IV (ESDP-IV)
- Ministry of Education (2011). Education Statistics Annual Abstract 2003.E.C. (2010-11)
- Ministry of Education. (2015). EDUCATION SECTOR DEVELOPMENT PROGRAM V (ESDP-V)
- Ministry of Education. (2017). Education Statistics Annual Abstract 2009 E.C. (2016-17)
- Ministry of Education Education Management Information System (EMIS) and ICT Directorate. (2018). Statistics Annual Abstract, 2009 E.C. (2016/17)
- Ministry of Education Education Strategy Center (ESC). (2018). Ethiopian Education Development Roadmap (2018-30)
- Napitupulu, W. P. (1997). Are the Ideas of Learning Kejar Packet A of Indonesia Still Valid?
- National Literacy Mission. Total Literacy Campaign. <http://www.nlm.nic.in/tlc_nlm.htm> (2019/12/21 閱覽)
- Nazret.com. (August 22, 2019). Ethiopia to scrap current 8-2-2 education system. <<https://www.nazret.com/2019/08/22/ethiopia-to-scrap-current-8-2-2-education-system/>> (2019/12/19 閱覽)
- Olango, M., and Lemma, S. (2008). Improving Teacher Quality and Status by Means of Social Dialogue: The Implementation of Teacher Education System Overhaul Program. *Academic Freedom in Ethiopia: Perspectives of Teaching Personnel*, 457.

- Pankhurst, Alula, Gina C., and Agazi T. Work in children's lives in Ethiopia: Examples from young lives communities. *Children's work and labour in East Africa: Social context and implications for policy (2015): 41-74.*
- Population Census Commission. (2007). National Census.
- Shafique, M. (2013). Why do students Drop out: A study of boys' and girls' drop out in primary schools, Jalalabad city, Nangarhar province, Afghanistan.
- UNESCO. (2010). World Data on Education VII Ed. 2010/2011: Ethiopia.
- UNESCO. (2015). Education for All 2015 National Review Report: Ethiopia. Catalog Number 231724.
- UNICEF. (2017). An Impact Evaluation of Alternative Basic Education in Ethiopia: The case of the regions Afar, Oromia and Somali.
- World Bank. (2008a). Achieving Better Service Delivery Through Decentralization in Ethiopia. Marito Garcia, Andrew Sunil Rajkumar.
- World Bank. (2008b). GENERAL EDUCATION QUALITY IMPROVEMENT PROGRAM (GEQIP)
- World Bank. (2018). How does World Bank classify countries?
 〈<https://datahelpdesk.worldbank.org/knowledgebase/articles/378834-how-does-the-world-bank-classify-countries>〉 (2020/1/18 閲覧)
- Worku, B. N. (2014). THE QUALITY OF EVENING EDUCATION PROGRAM AT JIMMA TEACHERS'TRAINING COLLEGE (JTTC), IN OROMIA, ETHIOPIA. *European Scientific Journal, 10*(28).
- 齊藤英介. (2005). バングラデシュ政府による成人基礎識字教育の問題: Total Literacy Movement (TLM) を事例として. *国際基督教大学学報 IA, 教育研究* (47), 49-59.
- 平良那愛. (2011). ラオスにおける村教育開発委員会の初等教育就学率向上に対する影響. *広島大学教育開発国際協力研究センター国際教育協力論集, 14*(1), 45-55.
- 谷口京子. (2017). マラウイ農村部の小学校における退学要因. *広島大学教育開発国際協力研究センター国際教育協力論集, 20*(1), 1-15.
- 独立行政法人国際協力機構. (2005a). ノンフォーマル教育支援の拡充に向けて.
- 独立行政法人国際協力機構. (2005b). 万人のための教育 (EFA) への挑戦: 日本の ODA に対する提言.
- 独立行政法人国際協力機構. (2012). 基礎教育セクター情報収集・確認調査 国別基礎教育セクター分析報告書: エチオピア.
- 南出和余. (2010). 選択としての学校教育. *南アジア研究, 2010*(22), 90-99.